

平成 25 年 度

セ ミ ナ ー 要 項



自治医科大学 医学部

学籍番号(所属)

氏 名

目 次

1. セミナー実施要領.....	i
セミナー・スケジュール黒板使用内規.....	iii
2. 教育目標.....	iv
3. 平成25年度セミナー一覧表.....	v
4. 平成25年度セミナー概要.....	1

1. セミナー実施要領

(1) 目的

自治医科大学では6年間を通じて、教職員との全人格的接触による教育を重視している。セミナーの目的は比較的少人数の学生と教員とが人間的な触れ合いを通じて、お互いに学ぶことである。通常の授業では得られない知識、技能、態度の習得を通じて、学生が本学の教育目標を達成するのを援ける。また学生が教育目標の内容を越えて成長することを奨励する。

(2) テーマ

学生のもつ多様な興味と、指導する教員の興味をともに満足するような幅広いものとする。

- a. 教員の専攻する分野の研究の第一線にふれるようなもの
- b. 日々の臨床の第一線でおこる問題
- c. 医学教育と関連した問題
- d. 医学の本質に深くかかわり合うようなもの
- e. 医師としての教養的テーマ
- f. 一般教養的テーマ
- g. 基礎医科学上のテーマ
- h. 語学
- i. スポーツ

(3) 学習方法

テーマに則した可能な限り多様な方法とする。

- a. 論文の精読、抄読
- b. 単行本の輪読、翻訳
- c. 調査、報告
- d. 実験、実習
- e. 症例の検討

(4) 担当教員

教授、准教授、講師及び助教とする。

セミナーを担当しようとする教員は学事課の指定する日までに次年度の原稿を作成し提出する。

(5) 履修方法

セミナー要項に従って、参加を希望するテーマの担当教員に4月中に直接申し出る。

(6) 開講期間、回数、曜日、時間

時間表で空いている適当な曜日、時間帯をあてる。原則として10コマ（15時間）、20コマ（30時間）または30コマ（45時間）とし、各学期10コマとする。

(7) 開講場所

教員室、カンファレンスルーム、図書室、実験室など学習方法や教員の指導に最も適した場所を使用する。

(8) 単位の認定方法

セミナーは自由選択で、既定時間（15時間につき1単位）に達すれば、単位を認定する。
但し、各学期1単位までとし、年間3単位を限度とする。

セミナー・スケジュール黒板使用内規

（範囲）自治医科大学の各講座、各部門のセミナーなどで学生、研究生、その他に開放されているもの。

（記入）第1行左に講座（部門）名、右に連絡責任者内線番号を記入する。

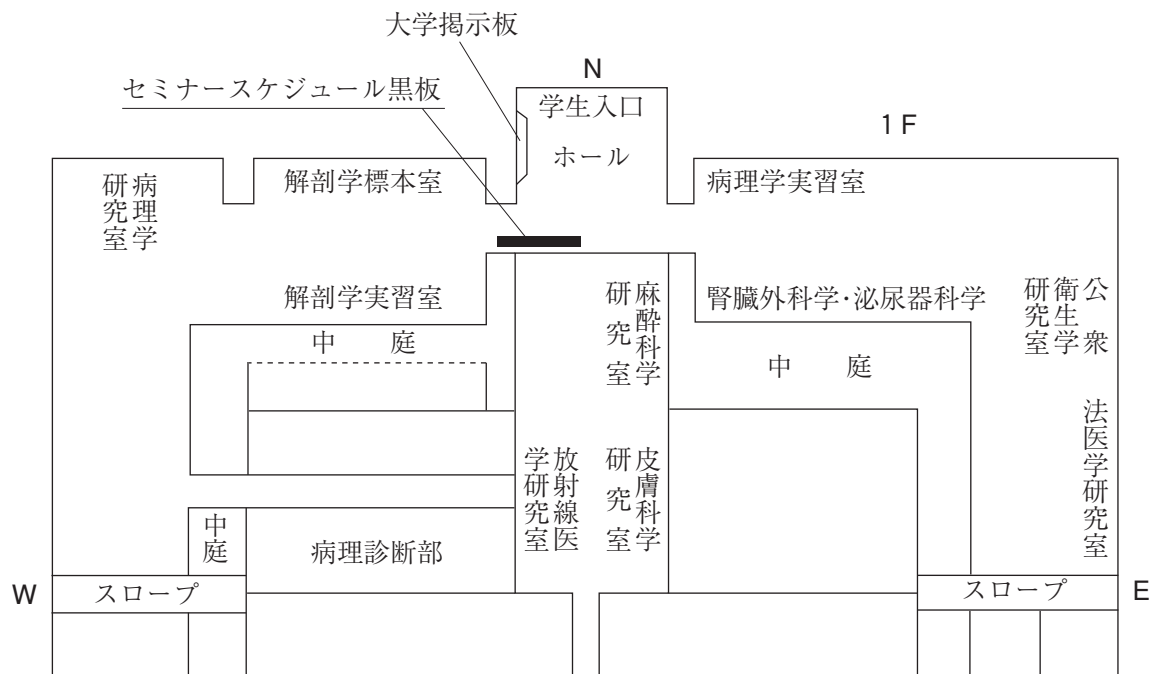
セミナーの詳細を書くスペースがないので、必要なら紙に書いたメモをマグネットでとめる。（B5版横書で区画内におさまるように）

セミナー開催日の1週間以上前に記入し終了後は直ちに消すことを原則とする。

（責任）各講座、各部門は「セミナー・スケジュール記入担当者」を定め、スケジュールを常に up-to-date なものにしておく責任をもつ。

（配分）年度始め、または必要なときに、教務委員会が再配分を行う。

（設置場所）



2. 教 育 目 標

医育の第一目標は云うまでもなく、すべての学生が十分な医学知識と基本となる医療技術を習得することである。このほかに本学の教育目標は病者の気持ちを汲む能力の「情」の面と地域医療に挺身する気概の「意」の面において豊かな人間性を涵養することを唱っている。しかしさらに学生に創造的で科学的な能力を獲得させるために本学は、1993年発足の新カリキュラムの中で、少人数教育の方法により個々の教員から全人的な人間的影響を受け得るいくつかの形態の授業を実施することとした。その一つが本授業科目「セミナー」である。すなわち、医学研究あるいは個々の専門領域の研究を通して日夜知的生産に励んでいる教員に学生が直に接しその影響を直接受けることによって、学生の創造性を養い、科学的な思考能力を学生に獲得させることが本科目の教育目標である。言い換えるならば本授業科目は、卒業までに習得した医学の知識と技術に留まらず、生涯を通じて自ら学習を続けることによって新しい知識と技術を獲得し続ける能力、あるいは新しい知識を創造していく能力を少人数教育の方法によって学生に獲得させることを教育目標とする。

3. 平成25年度 セミナー一覧

セミナー 番号	テ ー マ	対象学年	担当、責任者	所 属	頁
1	文化人類学研究	全学年	渥 美 一 弥	社 会 学	1
2	「地域」と「福祉」を考える	全学年	青 山 泰 子	〃	2
3	数理遺伝学	全学年	奥 田 浩	数 学	3
4	英語&クリティカル・シンキング	全学年	茂 木 秀 昭	英 語	4
5	中国語会話	全学年	阿 部 博 幸	中 国 語	5
6	護身術	全学年	〃	〃	6
7	中国映画鑑賞	全学年	〃	〃	7
8	韓国映画鑑賞	全学年	〃	〃	8
9	日中交流史	全学年	〃	〃	9
10	日本語学	全学年	〃	〃	10
11	日本語表現法	全学年	〃	〃	11
12	身体を読む	全学年	板 井 美 浩	保健体育	12
13	系統発生学	学部生全般	菊 地 元 史	教 育 学	13
14	人体の立体構造	2～6	野 田 泰 子	解 剖 学	14
15	機能組織細胞学	2～6	屋 代 隆	組 織 学	15
16	ナイト法医病理学を読む会	4	坂 本 敦 司	法 医 学	16
17	脳とストレス	全学年	尾 仲 達 史	神経脳生理学	17
18	糖尿病／神経内分泌	全学年	矢 田 俊 彦	統合生理学	18
19	脳と全身臓器の連関	全学年	〃	〃	19
20	遺伝子実験入門	1～5	柳 澤 健	構造生化学	20
21	動画で学ぶ生化学	全学年	浜 本 敏 郎	機能生化学	21
22	分子生物学基礎実験	全学年	遠 藤 仁 司	〃	22
23	症例から学ぶ生化学	全学年	〃	〃	23
24	Science を楽しむ	全学年	富 永 眞 一	病態生化学	24
25	生化学基礎実験	全学年	〃	〃	25

セミナー 番号	テ ー マ	対象学年	担当、責任者	所 属	頁
26	生化学のクイズをつくる	全学年	為 本 浩 至	病態生化学	26
27	免疫に関する最近の話題	全学年	柏 田 正 樹	〃	27
28	感染症の基本的理解（特に、細菌感染症）	3～6	平 井 義 一	細菌学・臨床感染症学	28
29	国際保健医療	全学年	松 岡 裕 之	医動物学	29
30	マラリア原虫およびマラリア媒介蚊の分子生物学的研究	1～3	〃	〃	30
31	日本の古典文学に親しむ（平家物語）	全学年	〃	〃	31
32	ウイルス感染症	5～6	岡 本 宏 明	ウイルス学	32
33	Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine を読む	3～6	森 澤 雄 司	臨床感染症学	33
34	腎と体液調節	1～3	谷 口 淳 一	分子薬理学	34
35	医学生のための創薬科学入門	全学年	輿 水 崇 鏡	〃	35
36	最新の薬物療法	4	藤 村 昭 夫	臨床薬理学	36
37	ドラマ「ドクターハウス」から医学と英語を学ぶ会	3～6	香 山 不二雄	環境毒性学	37
38	伝わる文章力・情報発信力入門	全学年	福 嶋 敬 宜	病理学・病理診断部	38
39	循環器疾患の病態を考える	全学年	荻 尾 七 臣	循環器内科学	39
40	虚血性心疾患の最新トピックスを考察する	全学年	北 條 行 弘	〃	40
41	弁膜症の心臓超音波検査	3～6	市 田 勝	〃	41
42	1枚の心電図から疾患を考える	3～6	江 口 和 男	〃	42
43	成人先天性心疾患の診療	4～6	上 野 修 市	循環器内科学	43
44	電解質輸送セミナー	3～6	武 藤 重 明	腎臓内科学	44
45	透析医療の環境からまなぶ	腎臓内科BSLを終了した5～6学年	安 藤 康 宏	〃	45
46	胸部X線写真読影	6	杉 山 幸比古	呼吸器内科学	46
47	臨床神経学	4～6	藤 本 健 一	神経内科学	47
48	M G H 神経 C P C 輪読	4～6	森 田 光 哉	〃	48
49	神経内科臨床講義	5	滑 川 道 人	〃	49
50	遺伝性神経変性疾患の分子遺伝学	3～6	嶋 崎 晴 雄	〃	50

セミナー 番号	テ ー マ	対象学年	担当、責任者	所 属	頁
51	『病気がみえる Vol.7 脳・神経』を10日 間で通読しよう！	全学年	滑 川 道 人	神経内科学	51
52	骨髄像・血液像の見方	4～6	小 澤 敬 也	血 液 学	52
53	診断学再考	3～6	石 橋 俊	内分泌代謝学	53
54	リウマチ分野の症例報告	4～5	岩 本 雅 弘	アレルギー 膠原病学	54
55	遺伝子から美容まで	3～6	大槻 マミ太郎	皮膚科学	55
56	精神分析	全学年	加 藤 敏	精神医学	56
57	精神病理学	4～6	〃	〃	57
58	ドイツ語圏精神病理学の研究	4～6	阿 部 隆 明	〃	58
59	小児精神医学	4～6	〃	〃	59
60	小児科症例検討会	5～6	山 形 崇 倫	小児科学	60
61	小児科リサーチカンファレンス	5～6	〃	〃	61
62	膵癌を中心とした膵・胆道のC T診断	5～6	佐 田 尚 宏	消化器・ 一般外科学	62
63	小児医療を熱く語ろう！－小児外科の実際－	4～6	前 田 貢 作	小児外科学	63
64	移植医療について考える	4～5	水 田 耕 一	移植外科学	64
65	臨床論文の書き方（症例報告）	4～6	三 澤 吉 雄	心臓血管 外 科 学	65
66	大動脈瘤に対する血管内治療	4～5	齊 藤 力	〃	66
67	先天性心疾患を理解する	全学年	河 田 政 明	とちぎ子ども医療セン ター・心臓血管外科	67
68	肺移植	4～5	遠 藤 俊 輔	呼吸器外科学	68
69	脳神経外科を楽しむ	全学年	渡 辺 英 寿	脳神経外科学	69
70	整形外科の画像診断と病態、外傷のプ ライマリーケア	4～6	東 高 弘	整形外科	70
71	医師の哲学	5～6	吉 川 一 郎	小児整形外科	71
72	腹膜播種、血管新生抑制を標的とした卵 巣癌治療	4～5	鈴 木 光 明	産科婦人科学	72
73	妊娠高血圧症候群	全学年	大 口 昭 英	〃	73
74	臓器不全の代替治療（腎不全を例に）	3～5	八木澤 隆	腎臓外科学	74
75	プレゼンテーション技術の習得	3～6	市 村 恵 一	耳鼻咽喉科学	75

セミナー 番号	テ ー マ	対象学年	担当、責任者	所 属	頁
76	全身疾患における耳鼻咽喉科	4～6	西 野 宏	耳鼻咽喉科学	76
77	耳鼻咽喉領域の症状からみた診断の進めかた	4～6	〃	〃	77
78	臨床麻酔学およびペインクリニック	3～6	竹 内 護	麻酔科学	78
79	患者急変対応	全 学 年	佐 藤 正 章	〃	79
80	集中治療の現状	4 学年以上 が望ましい	布 宮 伸	集中治療医学	80
81	超音波診断の理論と実践（エコーゼミ）	5	紺 野 啓	臨床検査医学	81
82	検査値から読み解く病態生理学	5	山 田 俊 幸	〃	82
83	Clinical Chemistry を読む	5	小 谷 和 彦	〃	83
84	救急集中治療	4～6	阿 野 正 樹	救急医学	84
85	神経情報学研究の現状	1～5	岸 浩一郎	情報センター	85
86	統計情報学の現状	1～5	〃	〃	86
87	ヒューマンエラー事象分析手法：Im SAEFR	全学年	河 野 龍太郎	メディカルシミュレーションセンター	87
88	医療のためのマインドマップ基礎講座	全学年	浅 田 義 和	〃	88
89	医療者のための IT・ICT 入門	全学年	浅 田 義 和	〃	89
90	内科鑑別診断のポイント	4～6	岡 崎 仁 昭	医学教育センター	90
91	USMLE 対策コース	4～6	〃	〃	91
92	学習支援セミナー	1～6	金 井 信 行	〃	92
93	緩和ケア入門 「緩和ケアいろは歌」を読み解く	全学年	丹 波 嘉一郎	緩和ケア部	93
94	緩和ケアのスタンダードについて考える	4 学年以上 が望ましい	〃	〃	94
95	心身医学	全学年	岡 島 美 朗	〃	95
96	わが国における医療の現状分析と将来展望	全学年	梶 井 英 治	地域医療学	96
97	“大規模循環器コホートのいろは”	全学年	石 川 鎮 清	医学教育センター	97
98	身体所見から診断を考える	4～6	〃	〃	98
99	貧血を考える	全学年	亀 崎 豊 実	地域医療学	99
100	地域医療と行動科学	全学年	岡 山 雅 信	〃	100

セミナー 番号	テ ー マ	対象学年	担当、責任者	所 属	頁
101	空間疫学：地理情報システム（GIS）の応用	全学年	岡 山 雅 信	地域医療学	101
102	家庭医療学の基本	3～6	三 瀬 順 一	〃	102
103	コモンヘルスプロブレム解剖から臨床まで “教えて学ぶ”	全学年	〃	〃	103
104	病気になる人、ならない人	3～5	中 村 好 一	公衆衛生学	104
105	疫学統計の概念を学び、実践する	全学年	〃	〃	105
106	地域医療行政と施策立案	全学年	針 田 哲	〃	106
107	止血血栓の新展開	4～6	窓 岩 清 治	分子病態 研 究 部	107
108	遺伝子治療	3～6	小 澤 敬 也	遺伝子治療 研 究 部	108
109	「時事医学」入門	3～6	花 園 豊	再生医学 研 究 部	109
110	炎症・免疫学入門	全学年	高 橋 将 文	炎症・免疫 研 究 部	110
111	発生生物学の最前線	全学年	川 上 潔	細胞生物 研 究 部	111
112	発生生物学入門	全学年	〃	〃	112
113	がんの生物学	全学年	〃	〃	113
114	ヒトの進化史を理解しよう	全学年	佐 藤 滋	細胞生物 研 究 部	114
115	人類遺伝学セミナー	全学年	岩 本 禎 彦	人類遺伝学 研 究 部	115
116	地域における消化器癌検診の現状と問題点	4～5	力 山 敏 樹	総合医学第2	116

セ ミ ナ ー 1

担 当 教 員	渥美 一弥
所 属	社 会 学
テ ー マ	文化人類学研究
学 習 目 標	世界の様々な文化における慣習、風俗、医療のありかた等を柔軟な思考で理解することを目指す。
学 習 方 法	文化人類学関係の文献の精読とそのトピックについての討論。
テ キ ス ト	受講学生と話し合って決める。
対 象 学 年	全学年
場 所	教育・研究棟セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	受講学生と相談する
期 間 ・ 回 数	通年、計30回
単 位	3単位
単 位 認 定 方 法	セミナーにおける発表内容により評価。4／5以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 2

担 当 教 員	青山 泰子
所 属	社 会 学
テ ー マ	「地域」と「福祉」を考える
学 習 目 標	多様な事情を抱える地域で生じている問題や各地の取り組みを考える素材として取り上げ、現状分析、成功・失敗要因の考察、問題点の検討などを通して、 ①隣接する福祉・保健・医療各々の領域から、今起きている問題を問い、「地域」を意識する目を養う。 ②保健・医療・看護の視点で「福祉」をとらえ直し、専門職・非専門職に何ができるかを考える。
学 習 方 法	1. テキスト・論文を用いての検討 2. ドキュメンタリー（DVD、VTR など）の検討 3. 調査事例の紹介 4. 経験談の発表会
テ キ ス ト	適宜資料を配付する。
対 象 学 年	全学年
場 所	教育研究棟セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	月～木曜の昼休、もしくは15時以降。 詳細は参加者と相談の上、決定する。
期 間 ・ 回 数	5月～3月、10回（月1～2回）
単 位	1単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 3

担 当 教 員	奥田 浩
所 属	数 学
テ ー マ	数理遺伝学
学 習 目 標	1. 遺伝学における数学的側面について理解する。 2. 遺伝学の基礎的知識の整理を行う。 3. 遺伝学と臨床医学とのかかわりについて理解する。
学 習 方 法	
テ キ ス ト	プリントを配布する。
対 象 学 年	全学年
場 所	未定
曜 日 ・ 時 刻	未定
期 間 ・ 回 数	相談のうえ決定する。
単 位	なし
単位認定方法	なし
備 考	

セ ミ ナ ー 4

担 当 教 員	茂木 秀昭
所 属	英 語
テ ー マ	英語&クリティカル・シンキング
学 習 目 標	1) 英語を通して社会の様々な問題に関して、多角的な視点で考え、議論する。 2) 論理的思考やクリティカル・シンキングを身につけ、問題解決能力やコミュニケーション能力を養成する。
学 習 方 法	様々なトピックに関して、基本的な英語表現を学ぶと共に、文献や映像等の資料をもとに、議論などをする。
テ キ ス ト	適宜プリント配布
対 象 学 年	全学年
場 所	教育・研究棟4階 総合教育研究室
曜 日 ・ 時 刻	毎週水曜日 12:40-13:30を基本とするが、受講希望者と相談の上決定
期 間 ・ 回 数	各学期10回、計30回
単 位	各学期1単位、1年3単位
単位認定方法	4/5以上の出席
備 考	原則として10名以内。英語の苦手な人も歓迎。

セ ミ ナ ー 5

担 当 教 員	阿部 博幸
所 属	中 国 語
テ ー マ	中国語会話
学 習 目 標	中国語の基礎を確認しながら、簡単な表現を使った会話ができるようになる。
学 習 方 法	常用表現の入れ換え練習をしたり、自由な会話を楽しむ。
テ キ ス ト	『語感をみがく入門中国語』阿部博幸・王衛清（朝日出版社）
対 象 学 年	全学年
場 所	未定
曜 日 ・ 時 刻	未定
期 間 ・ 回 数	通年、計30回
単 位	2単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	問い合わせは阿部（内線3358または、 jichiabe@jichi.ac.jp ）まで。

セ ミ ナ ー 6

担 当 教 員	阿部 博幸・柳澤 健
所 属	中国語・構造生化学
テ ー マ	護 身 術
学 習 目 標	合気道などの稽古を通して護身の考え方の基礎を学ぶ。
学 習 方 法	突きの捌き方・手の解き方・受け身・体捌きを反復しながら技を習得する。
テ キ ス ト	特に使用しない。
対 象 学 年	全学年
場 所	未定
曜 日 ・ 時 刻	未定
期 間 ・ 回 数	4～6月及び9月 計15回、10～1月 計15回
単 位	各1単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	問い合わせは阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。

セ ミ ナ ー 7

担 当 教 員	阿部 博幸
所 属	中 国 語
テ ー マ	中国映画鑑賞
学 習 目 標	中国映画を通して、中国の文化や中国人の考え方を理解する。
学 習 方 法	DVD や VCD で中国映画を鑑賞し、映画で描かれている中国の文化・風俗習慣などを欧米や日本のものと比較しながら話し合う。
テ キ ス ト	使用しない。
対 象 学 年	全学年
場 所	未定
曜 日 ・ 時 刻	未定（参加者で調整する）
期 間 ・ 回 数	通年、計15回
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	4 / 5 以上の出席
備 考	問い合わせは、阿部（内線3358または、 jichiabe@jichi.ac.jp ）まで。

セ ミ ナ ー 8

担 当 教 員	阿部 博幸
所 属	中 国 語
テ ー マ	韓国映画鑑賞
学 習 目 標	韓国映画を通して、韓国の文化や韓国人の考え方を理解する。
学 習 方 法	DVD など韓国映画を鑑賞し、映画で描かれている韓国の文化・風俗習慣などを欧米や日本のものと比較しながら話し合う。
テ キ ス ト	使用しない。
対 象 学 年	全学年
場 所	未定
曜 日 ・ 時 刻	未定（参加者で調整する）
期 間 ・ 回 数	通年、計15回
単 位	1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	問い合わせは、阿部（内線3358または、 jichiabe@jichi.ac.jp ）まで。

セ ミ ナ ー 9

担 当 教 員	阿部 博幸
所 属	中 国 語
テ ー マ	日中交流史
学 習 目 標	日本と中国の交流の歴史を学びながら、現在の日中両国に対する理解を深め、日本の今後のあり方を考える。
学 習 方 法	テーマを決めて資料を読み、歴史確認について話し合う。
テ キ ス ト	特に使用しない。必要に応じてプリントを配付する。
対 象 学 年	全学年
場 所	未定
曜 日 ・ 時 刻	未定（参加者で調整する）
期 間 ・ 回 数	通年、計15回
単 位	1単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	問い合わせは、阿部（内線3358または、 jichiabe@jichi.ac.jp ）まで。

セ ミ ナ ー 10

担 当 教 員	阿部 博幸
所 属	中 国 語
テ ー マ	日本語学
学 習 目 標	現代日本語を客観的にとらえなおし、日本語の体系を理解する。
学 習 方 法	テーマを決めて資料を読み、日本語についてあらゆる角度から話し合う。
テ キ ス ト	特に使用しない。必要に応じてプリントを配付する。
対 象 学 年	全学年
場 所	未定
曜 日 ・ 時 刻	未定（参加者で調整する）
期 間 ・ 回 数	通年、計15回
単 位	1単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	問い合わせは、阿部（内線3358または、 jichiabe@jichi.ac.jp ）まで。

セ ミ ナ ー 11

担 当 教 員	阿部 博幸
所 属	中 国 語
テ ー マ	日本語表現法
学 習 目 標	日本語の正書法を習得し、実用的な文章が書けるようになる。
学 習 方 法	プリントを使って基礎の確認をし、テーマを決めて文章を作成する。
テ キ ス ト	特に使用しない。必要に応じてプリントを配付する。
対 象 学 年	全学年
場 所	未定
曜 日 ・ 時 刻	未定（参加者で調整する）
期 間 ・ 回 数	通年、計15回
単 位	1単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	問い合わせは、阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。

セ ミ ナ ー 12

担 当 教 員	板井 美浩
所 属	保健体育
テ ー マ	身体を読む
学 習 目 標	「身体」・「運動」に関する書籍や文献の講読および身体運動の実践やパフォーマンス鑑賞を通じて、「身体」にたいする認識を深める。
学 習 方 法	書籍あるいは文献の講読 舞踏などパフォーマンス鑑賞および実践 重量物などを用いた身体のさばき方実践
テ キ ス ト	相談の上、決定する
対 象 学 年	全学年
場 所	総合教育研究室、その他の教室
曜 日 ・ 時 刻	相談の上、決定する
期 間 ・ 回 数	通年30回
単 位	1～2単位
単位認定方法	出席状況による
備 考	

セ ミ ナ ー 13

担 当 教 員	菊地 元史
所 属	教育学
テ ー マ	系統発生学
学 習 目 標	医学研究は、その殆どすべてがヒトあるいは、マウスなど哺乳類の実験動物を対象としている。しかし、我々の身体は、原始の生命に始まり、40億年とされる長い歴史をかけて徐々に現在の形にたどり着いたのである。この過程（系統発生）に目を向けることによって、ヒトについての理解もまた驚くほど深まるだろう。例えば、どうして呼吸器と消化器は、咽頭で交差する構造になっているのだろうか。また、どうして聴覚と平衡覚を内耳が司るのだろうか。本セミナーでは、これらの疑問に答える比較動物学および系統発生学という概念を身につけることを目標とする。
学 習 方 法	討論会、抄読会、実験を適宜組み合わせる。
テ キ ス ト	随時指定する。
対 象 学 年	学部生全般
場 所	未定
曜 日 ・ 時 刻	履修希望者と相談のうえ決める。
期 間 ・ 回 数	年15回程度
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	出席回数
備 考	

セ ミ ナ ー 14

担 当 教 員	野田 泰子
所 属	解剖学部門
テ ー マ	人体の立体構造
学 習 目 標	マクロ解剖学ですでに学習した人体の立体構造についてあらためて復習し、画像診断にも活かせるような確実なイメージ像を構築する。
学 習 方 法	解剖学書、アトラスを用いた系統的な復習および実習。
テ キ ス ト	参考図書： 『臨床のための解剖学』 『スネル臨床解剖学』
対 象 学 年	2 ～ 6 学年
場 所	解剖学部門セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	相談して決める。
期 間 ・ 回 数	平成25年 4 月～平成26年 3 月
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	2 / 3 以上の出席
備 考	数名

セ ミ ナ ー 15

担 当 教 員	屋代 隆、藤原 研、塚田 岳大、東 森生
所 属	組織学部門
テ ー マ	機能組織細胞学
学 習 目 標	下垂体前葉細胞の機能は、視床下部や末梢器官からの内分泌シグナルによって支配されています。しかし、同時に前葉組織内にもコミュニケーションや細胞外マトリックスが細胞機能を調節するしくみが存在して、はじめて下垂体前葉は、全体としての調和のとれた活動を行うことができるのです。これらの局所的な細胞機能調節の機能を明らかにしようとする基礎研究は、再生移植科学の分野でも、幹細胞からの機能的な臓器（組織）発生の観点から注目を集めようとしています。 これらの課題に、光学顕微鏡および電子顕微鏡レベルでの免疫組織化学や in situ hybridization、さらに、トランスジェニック動物やタンパク質の強制発現／発現抑制を行なった細胞・器官の生体イメージング等の形態学的技術によってアプローチしています。それらを理解することを学習目標とします。
学 習 方 法	討論会、抄読会、実験を組み合わせる。
テ キ ス ト	適宜、指定する。
対 象 学 年	2～6 学年
場 所	解剖学講座組織学部門セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	履修希望者と相談の上決める。
期 間 ・ 回 数	年10回程度
単 位	1 単位
単位認定方法	4／5 以上出席
備 考	

セ ミ ナ ー 16

担 当 教 員	坂本 敦司
所 属	法医学部門
テ ー マ	ナイト法医病理学を読む会
学 習 目 標	法医学の講義は地域での用務上必要な医事法制や遭遇するであろう検死業務への対応を強く意識したものとなっているが、本セミナーでは一步進めて法医解剖・法医病理学についてのより深い知識・考え方の習得を目指す。
学 習 方 法	成書の輪読を中心として、適宜、討論を行う。
テ キ ス ト	Knight's Forensic Pathology (3rd ed) Forensic Pathology (principles and practice)
対 象 学 年	4 学年
場 所	地域医療学センター 法医学部門
曜 日 ・ 時 刻	火曜（17：00～18：30）を予定しているが相談の上、変更可。
期 間 ・ 回 数	1 ～ 2 学期・10コマ程度（15時間相当程度）
単 位	1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	3 名程度

セ ミ ナ ー 17

担 当 教 員	尾仲 達史、高柳 友紀、吉田 匡秀
所 属	神経脳生理学部門
テ ー マ	脳とストレス
学 習 目 標	ストレスは、様々な疾患の発症因子あるいは増悪因子である。このストレス反応を制御しているのが脳である。この領域の最近の成果を学習する。
学 習 方 法	単行本あるいは総説の輪読。 実験の見学・参加。
テ キ ス ト	相談して決める。
対 象 学 年	全学年
場 所	神経脳生理学部門 カンファレンスルーム（教育・研究棟5F）
曜 日 ・ 時 刻	相談して決める。
期 間 ・ 回 数	平成25年4月～平成26年3月
単 位	1単位
単位認定方法	2／3以上の出席
備 考	2～6名

セ ミ ナ ー 18

担 当 教 員	矢田 俊彦、中田 正範、出崎 克也、下村 健寿、前島 裕子、 岩崎 有作
所 属	統合生理学部門
テ ー マ	糖尿病／神経内分泌
学 習 目 標	英文論文の読み方・紹介方法を学習 インスリン分泌と作用、糖代謝調節、摂食調節機構の理解 糖尿病、肥満、高血圧の成因の理解 神経内分泌系の機構の理解 ストレスと神経内分泌・疾患との関係についての理解
学 習 方 法	論文抄読
テ キ ス ト	国際雑誌より論文をコピーし配付
対 象 学 年	全学年
場 所	セミナー室3
曜 日 ・ 時 刻	18：00～19：30、第3月曜日、参加日相談可
期 間 ・ 回 数	平成24年4月～平成25年3月、年12回
単 位	1単位
単 位 認 定 方 法	1／2以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 19

担 当 教 員	矢田 俊彦、中田 正範、出崎 克也、下村 健寿、前島 裕子、 岩崎 有作
所 属	統合生理学部門
テ ー マ	脳と全身臓器の連関
学 習 目 標	脳と全身臓器の機能はこれまで別個に扱われてきた。しかし全身臓器⇔脳の相互作用は生体恒常性の維持とその破綻（疾患）において極めて重要である。この新しい“臓器連関学”について個体から細胞・分子レベルで学習し自由な発想を出し合う。
学 習 方 法	論文抄読
テ キ ス ト	相談して決める。 国際雑誌より論文をコピーして配布
対 象 学 年	全学年
場 所	統合生理学部門カンファレンス室
曜 日 ・ 時 刻	18：00～19：30、月 1 回、参加日相談可
期 間 ・ 回 数	平成24年 4 月～平成25年 3 月、年12回
単 位	1 単位
単位認定方法	1 / 2 以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 20

担 当 教 員	柳澤 健、松儀 実広、太田 聡、多胡 憲治
所 属	構造生化学部門
テ ー マ	遺伝子実験入門
学 習 目 標	基本的なモレキュラークローニングの手法を学び、セントラルドグマを実際に体感する。
学 習 方 法	実際に遺伝子を PCR により増幅し、哺乳動物細胞を用いて発現させる。
テ キ ス ト	特になし
対 象 学 年	1 ～ 5 学年
場 所	構造生化学部門 実験室 (K6-115)
曜 日 ・ 時 刻	相談の上決定する。
期 間 ・ 回 数	各学期、15回ほど。
単 位	各学期、1 単位、1 年 3 単位。
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	1-2名

担 当 教 員	浜本 敏郎
所 属	機能生化学部門
テ ー マ	動画で学ぶ生化学
学 習 目 標	健康に関する素朴な疑問に生化学の視点から考察を加えることができる。
学 習 方 法	ネット上の生化学に関する資料の中から特に動画として提供されているものを選び、解説する。無批判に受け入れるのではなく、生化学的に合理的説明であるかを確認する。
テ キ ス ト	プリントを配布
対 象 学 年	全学年
場 所	機能生化学
曜 日 ・ 時 刻	17:00～18:30 週1回、曜日は相談して決める
期 間 ・ 回 数	各学期10回
単 位	1単位/学期
単 位 認 定 方 法	少なくとも一つの資料についての解説担当
備 考	現在のところ、ネット上での生化学に関する動画資料の大部分は英語である。

担 当 教 員	遠藤 仁司、富永 薫、坂下 英司、笠嶋 克巳、黒岩 憲二
所 属	機能生化学部門
テ ー マ	分子生物学基礎実験
学 習 目 標	様々な遺伝子及び遺伝子産物の研究に応用可能な生化学的・分子生物学的解析法を学ぶ (1)基礎的実験手技、(2)論理的思考力、(3)問題解決能力等の修得をめざす。
学 習 方 法	当講座のテーマである転写後レベルの遺伝子発現制御の研究やミトコンドリアタンパク質に関する研究を行う。基本的には教員と相談しながら各個人に適した実験計画を組む。教科書では学べない生化学研究における基本的な技術、思考過程を楽しみながら体感する。
テ キ ス ト	こちらで用意する
対 象 学 年	全学年
場 所	生化学講座実験室
曜 日 ・ 時 刻	相談して決める
期 間 ・ 回 数	各学期15回
単 位	各学期1単位、1年3単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	数名程度

セ ミ ナ ー 23

担 当 教 員	遠藤 仁司
所 属	機能生化学部門
テ ー マ	症例から学ぶ生化学
学 習 目 標	臨床症例をもとに、その生化学的事象を考える力を養う。
学 習 方 法	「症例から学ぶ生化学（東京化学同人）」、「症例ファイル・生化学（丸善出版）」等から引用した症例を用いて、生化学的事象を順番に討議・解説する。
テ キ ス ト	プリントを配布
対 象 学 年	全学年
場 所	生化学セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	相談の上決定
期 間 ・ 回 数	4 月～ 9 月 15回 10月～ 3 月 15回
単 位	各期 1 単位、1 年 2 単位
単 位 認 定 方 法	4 / 5 以上の出席
備 考	数名程度

セ ミ ナ ー 24

担 当 教 員	富永 眞一
所 属	病態生化学部門
テ ー マ	Science を楽しむ
学 習 目 標	生命科学の面白さを味わう。同時に最新の論文の大意をくみとる力を養う。
学 習 方 法	Science 最新号について、生命科学分野の論文を抄読する。
テ キ ス ト	Science (on line journal) コピーをこちらで用意する。
対 象 学 年	全学年
場 所	病態生化学セミナー室（教育・研究棟6階南）
曜 日 ・ 時 刻	曜日・時刻は相談の上決定する
期 間 ・ 回 数	各学期10回
単 位	各学期1単位、1年3単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	4 名以下

セ ミ ナ ー 25

担 当 教 員	富永 眞一、為本 浩至、小宮根 真弓
所 属	病態生化学部門
テ ー マ	生化学基礎実験
学 習 目 標	生体試料についての生化学的、分子生物学的解析は病因を探る上でも近年ますますその重要性が増している。このセミナーでは、基礎的な生化学の実験操作を学ぶ。
学 習 方 法	当講座では細胞の増殖・分化の制御に關与する遺伝子およびその産物について、機能の解析を行っている。これらに關連した実験を通じ、生化学の実験手技を体得する。
テ キ ス ト	特に指定しない
対 象 学 年	全学年
場 所	生化学講座 実験室（教育・研究棟6階南）
曜 日 ・ 時 刻	曜日・時刻は相談の上決定する。
期 間 ・ 回 数	各学期 10回
単 位	各学期 1単位、1年3単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	4名以下。

セ ミ ナ ー 26

担 当 教 員	為本 浩至
所 属	病態生化学部門
テ ー マ	生化学のクイズをつくる
学 習 目 標	4 択式のクイズ形式の生化学の問題をつくる。
学 習 方 法	英単語学習ソフトP-システムの自作問題機能を用いてコンピュータで遊べる生化学クイズをつくる。
テ キ ス ト	リッピンコットの生化学
対 象 学 年	全学年
場 所	生化学講座（教育・研究棟 6 階）
曜 日 ・ 時 刻	月、木、金のいずれかの（朝）週 1 回 夕方也可
期 間 ・ 回 数	30分～1 時間 10回／各学期
単 位	各学期 1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	数名程度

セ ミ ナ ー 27

担 当 教 員	柏田 正樹
所 属	病態生化学部門
テ ー マ	免疫に関する最近の話題
学 習 目 標	基礎医学科目である免疫学の知識を深めるとともに、病態理解に役立つ最新の研究論文の概略を理解できる。
学 習 方 法	関連分野の最新の論文を抄読会形式で議論する。
テ キ ス ト	資料および論文は、PDF をこちらで用意する。
対 象 学 年	全学年
場 所	生化学講座セミナー室（教育・研究棟6階）
曜 日 ・ 時 刻	曜日、時間は相談の上決定する
期 間 ・ 回 数	年間20回程度
単 位	1年2単位
単位認定方法	出席と理解度から判断
備 考	特になし

セ ミ ナ ー 28

担 当 教 員	平井 義一、林 俊治、下村 裕史、矢野 晴美、森澤 雄司、 笹原 鉄平
所 属	細菌学部門、臨床感染症学部門
テ ー マ	感染症の基本的理解（特に、細菌感染症）
学 習 目 標	1. 微生物全体の基本的概念の修得。 2. 微生物取り扱いの基本的知識・手技の習得。 3. 微生物学、感染症学、感染制御学での研究・検討の方法・まとめ方
学 習 方 法	1. レクチャ形式 2. 実習（染色手技、無菌操作、など） 3. ディスカッション形式（微生物分離例など） 4. 英文論文の熟読（研究・検討の方法・まとめ方）
テ キ ス ト	適宜に配布。
対 象 学 年	3～6 学年（感染系基礎講義修了後）
場 所	細菌学教室（セミナー室）
曜 日 ・ 時 刻	月に2 回程度（曜日および時刻は受講者と相談し決める）
期 間 ・ 回 数	
単 位	1 単位
単位認定方法	出席および理解度に応じて認定
備 考	

担 当 教 員	松岡 裕之
所 属	医動物学部門
テ ー マ	国際保健医療
学 習 目 標	現在の国際保健医療にはどのような課題・問題があるか、どのような解決・対応ができるかについて理解し考える。
学 習 方 法	教科書、単行本、学術論文などを輪読、討論する。 前年度はBSLで経験した症例について英語で症例呈示を行ない、英語で質疑応答を行なった。
テ キ ス ト	文献コピーを用意する。
対 象 学 年	全学年
場 所	医動物学教室セミナー室（W3-305）
曜 日 ・ 時 刻	金曜日 17:00～18:30
期 間 ・ 回 数	1学期に15回
単 位	1単位
単位認定方法	2／3以上の出席
備 考	2～8名位

担 当 教 員	松岡 裕之
所 属	医動物学部門
テ ー マ	マラリア原虫およびマラリア媒介蚊の分子生物学的研究
学 習 目 標	分子生物学的手法を用いてマラリア原虫とマラリア媒介蚊の寄生関係を研究する。このことを通じて科学的論理性を習得する。
学 習 方 法	放課後および週末を利用して研究室において実験を行なう。図書館・コンピューターネットワークを利用して文献の検索・抄読をする。研究成果を論文報告する。
テ キ ス ト	特に購入する必要はない。 教室にある図書を利用してもらう。
対 象 学 年	1～3学年 1～2名
場 所	医動物学教室（W 3－305）
曜 日 ・ 時 刻	特に指定はない。相談のうえ決める。
期 間 ・ 回 数	1年間。300時間位。
単 位	2単位
単位認定方法	実験技術の修得、文献の読破量、実験結果にもとづくレポートの作成をみて認定する。
備 考	

担 当 教 員	松岡 裕之
所 属	医動物学部門
テ ー マ	日本の古典文学に親しむ（平家物語）
学 習 目 標	1000年前に書かれた源氏物語などに比べると、800年くらい前に形成された平家物語は、口承文学ということもあって、ずいぶん読み易いしまたリズムに優れている。冒頭の「祇園精舎の鐘の音、盛者必衰のことわりをあらわす～～」は誰もが口ずさむ名文である。日本のインテリのひとりとして世に出てゆく皆さんに、わずかであっても古典文学を楽しむ余裕をもっていただきたい。800年前の先人が、現代の私たちとさして変わらないメンタリティーを持っていたこと、また当時の死生観が現代のそれと比べ、どれほど違うのかあるいは変わらないのかを感じ取って欲しい。
学 習 方 法	セミナーでは長大なこの物語の中の名場面を選んで、一章ずつ読み合わせ、その詩のようなリズムを楽しむ。捉えにくい部分については解説を加えて読み解いてゆきたい。予習・復習はいっさいなし。集まって、読んで、感じて、それでオシマイである。
テ キ ス ト	テキストは不要。図書館にある「平家物語」をコピーしてその都度渡す。
対 象 学 年	全学年
場 所	医動物学教室セミナー室（W 3 -305）
曜 日 ・ 時 刻	毎週金曜日 12：40～13：30
期 間 ・ 回 数	1 学期から 2 学期にかけて計15回
単 位	1 単位
単位認定方法	2 / 3 以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 32

担 当 教 員	岡本 宏明
所 属	ウイルス学部門
テ ー マ	ウイルス感染症
学 習 目 標	日本を含むアジアに多いウイルス感染症、特にウイルス肝炎や新興感染症をテーマに取り上げ、医学研究の方法論について学ぶ。
学 習 方 法	レクチャー、実験および関係する学術論文の抄読と評価
テ キ ス ト	なし
対 象 学 年	5～6 学年
場 所	ウイルス学教室
曜 日 ・ 時 刻	相談のうえ、スケジュールを決定する。
期 間 ・ 回 数	10回程度
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	出席に応じて担当教員が認める。
備 考	

担 当 教 員	森澤 雄司
所 属	感染免疫学講座、附属病院・感染制御部／感染症科
テ ー マ	Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine を読む
学 習 目 標	Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine の中から数篇を読み、医学英語に親しむとともに、症例報告に基づいて臨床推論の論理的思考過程を追体験する。
学 習 方 法	Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine の輪読。
テ キ ス ト	Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine の中から指定する。
対 象 学 年	3～6 学年
場 所	卒後臨床研修センター会議室（変更あり）
曜 日 ・ 時 刻	木曜日・昼休み（変更あり）
期 間 ・ 回 数	未定（参加者の希望による）
単 位	1 単位
単位認定方法	出席および理解度に応じて認定
備 考	

担 当 教 員	谷口 淳一
所 属	分子薬理学部門
テ ー マ	腎と体液調節
学 習 目 標	体内環境とも言える体液の組成が大きく変化すると、生命を維持することも難しくなります。このセミナーでは、体液という体内環境を維持する腎臓の働きについて学びます。腎機能をやさしく解説した英語のテキストを使用しますが、専門用語以外は、中学生程度の英語で十分です。「英語を」学ぶのではなく「英語で」学び、腎臓の不思議に迫ってみましょう。
学 習 方 法	単行本の輪読
テ キ ス ト	B. M. Koeppen, B. A. Stanton : Renal Physiology 4th. ed. Mosby Year Book, St. Louis, 2007
対 象 学 年	1 ～ 3 学年
場 所	分子薬理学部門図書室（E 2－130）
曜 日 ・ 時 刻	金曜日・17：00～18：30（相談の上、変更可）
期 間 ・ 回 数	各学期 7 回
単 位	各学期 1 単位、1 年 3 単位
単位認定方法	各学期 4 回以上の出席
備 考	1 名以上、4 名以下 テキストを購入する必要はありません。

セ ミ ナ ー 35

担 当 教 員	輿水 崇鏡
所 属	分子薬理学部門
テ ー マ	医学生のための創薬科学入門
学 習 目 標	薬が創られるまでには病気の深い理解と研究過程が必要になります。本セミナーでは医学的に重要な分子群に対して薬が創られ、臨床で評価されるまでの過程を学ぶことにより、薬物治療について理解を深めることを目的とします。
学 習 方 法	英語の総説を参加者が分担して輪読した上で教官から解説を加える。
テ キ ス ト	Nature reviews drug discoveryより指定。 必要に応じて薬理学の教科書を引用する。
対 象 学 年	全学年
場 所	分子薬理学部門 図書室（E 2－130）
曜 日 ・ 時 刻	水曜日、17：00－18：00（相談により変更可）
期 間 ・ 回 数	4月－3月、各学期10回
単 位	2単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	テキストはプリントして配布します。5名以内。

セ ミ ナ ー 36

担 当 教 員	藤村 昭夫
所 属	臨床薬理学
テ ー マ	最新の薬物療法
学 習 目 標	近年、新しい医薬品が数多く開発され、それに伴って多くの疾患において新しい薬物療法が試みられている。本セミナーでは、これらの新しい薬物療法の試みを理解するとともに、薬物療法の基本的原則を習得する。
学 習 方 法	臨床薬理に関する最新の論文（欧文雑誌に掲載されたもの）を抄読し、これら新しい薬物療法の位置づけを行う。
テ キ ス ト	毎回配布する。
対 象 学 年	4 学年
場 所	西棟 3 階、臨床薬理学カンファランスルーム
曜 日 ・ 時 刻	月曜日・18：00～19：00
期 間 ・ 回 数	4 月～ 3 月 週 1 回
単 位	15回出席で 1 単位（1 年 2 単位まで）
単位認定方法	出席回数
備 考	

セ ミ ナ ー 37

担 当 教 員	香山 不二雄
所 属	環境毒性学部門
テ ー マ	ドラマ「ドクターハウス」から医学と英語を学ぶ会
学 習 目 標	1. 米国人気ドラマ「ドクターハウス」シリーズに登場する疾病について自ら調べて学ぶ。 2. 英語ヒアリング力を高める。 3. 英語討論力を高める。 4. 医学英語力を高める。
学 習 方 法	1. ドクターハウスを鑑賞する。 2. 疾病、鑑別診断について調べる。 } 事前準備 3. 当番になった学生が、疾病について説明する。（低学年） 4. 当番の学生（4～6年生）が鑑別診断について説明する。 5. 英語で疾病について議論する。 6. 英語でアメリカ人の生活やメンタリティに関して話す。（低学年）
テ キ ス ト	特にないが既に購入済の指定のDVDを前もって見る。
対 象 学 年	3～6 学年
場 所	その都度連絡
曜 日 ・ 時 刻	曜日は参加者の都合で後日決定 18：00～20：00
期 間 ・ 回 数	年間10回
単 位	年間2単位
単位認定方法	2／3以上の出席
備 考	

担 当 教 員	福島 敬宜
所 属	病理学・病理診断部
テ ー マ	伝わる文章力・情報発信力入門
学 習 目 標	医療人として生き抜くための文章力と情報発信力を身に付ける。
学 習 方 法	本セミナーでは、主に医学・医療・バイオ分野などに関する、一般読者を対象とした文章執筆、情報発信について学んでいく。 自然科学系で求められる文章は、決して難解な言い回し、しゃれたものである必要はない。まず事実を正確に伝えること、分かりやすいことこそが求められる。また、専門的な内容を噛み砕いて伝えることも重要である。 セミナーを通して「伝わる文章」について考えることは、コミュニケーション能力の向上にもつながるため、文書作成、論文執筆に活かせるだけでなく症例提示、研究発表、電子メール文章など、すべての、情報発信力の向上が期待できる。
テ キ ス ト	大学生のための日本語表現トレーニング・ドリル編（安部朋世ら編者、三省堂） 推薦図書：あなたの話はなぜ「通じない」のか（山田ズーニー著、筑摩書房）
対 象 学 年	全学年
場 所	病理学講座 図書室（西1F）
曜 日 ・ 時 刻	第1回目に参加者との話し合いで決める。
期 間 ・ 回 数	月2回程度
単 位	年間2単位
単位認定方法	2／3以上の出席と活動実績
備 考	看護学部生の参加も認める。 問い合わせは、福島（nfukushima@jichi.ac.jp）まで。

担 当 教 員	荻尾 七臣
所 属	循環器内科学部門
テ ー マ	循環器疾患の病態を考える
学 習 目 標	日常臨床のなかから未解決の重要課題をみつけ、解決する能力をやしなう。
学 習 方 法	循環器疾患に関するホットな話題を提供する臨床的論文を抄読しディスカッションを行う。
テ キ ス ト	なし
対 象 学 年	全学年
場 所	循内医局
曜 日 ・ 時 刻	火曜・AM 7 時45分～ 8 時30分
期 間 ・ 回 数	4 月～ 3 月 毎週
単 位	2 単位（半年で 1 単位）
単位認定方法	出席と態度
備 考	

担 当 教 員	北條 行弘
所 属	循環器内科学部門
テ ー マ	虚血性心疾患の最新トピックスを考察する
学 習 目 標	日常臨床における虚血性心疾患の問題点を理解する。
学 習 方 法	最新の論文から虚血性心疾患治療の現状、課題を検討する。
テ キ ス ト	なし
対 象 学 年	全学年
場 所	循内医局
曜 日 ・ 時 刻	月曜・PM8時～9時
期 間 ・ 回 数	4月～3月 毎週
単 位	2単位（半年で1単位）
単位認定方法	出席と態度
備 考	

セ ミ ナ ー 41

担 当 教 員	市田 勝
所 属	循環器内科学部門
テ ー マ	弁膜症の心臓超音波検査
学 習 目 標	循環器病の基礎を習得したものを対象にし、特に、弁膜症を中心として、心エコー図を判読できるようにする。
学 習 方 法	当院循環器センターに入院した患者の心エコー図を読む。 症例は、弁膜症を中心とし、実際に行われた手術所見を参考に、その前後のエコー図を比較する。
テ キ ス ト	なし
対 象 学 年	3～6 学年
場 所	循環器センター カンファレンス室
曜 日 ・ 時 刻	金曜日 17：30～
期 間 ・ 回 数	各学期15回
単 位	3 単位
単 位 認 定 方 法	出席と態度
備 考	

セ ミ ナ ー 42

担 当 教 員	江口 和男
所 属	循環器内科学部門
テ ー マ	1枚の心電図から疾患を考える
学 習 目 標	心電図の基本的かつ実践的な読み方を学ぶ。 実際の医療現場で、病態をどのように考え診療していくかというコンセプトが理解できる。
学 習 方 法	実際の患者さんの心電図を見ながら心臓病の病態を考えていく。
テ キ ス ト	なし
対 象 学 年	2～6学年
場 所	本館8Fエレベーター横カンファ室
曜 日 ・ 時 刻	月曜日 16:45～17:30
期 間 ・ 回 数	4月～3月 毎週
単 位	2単位（半年で1単位）
単位認定方法	出席と態度
備 考	参加登録やテキストなどの準備は不要です。 いきなり来て参加してもらっても構いません。

担 当 教 員	上野 修市
所 属	循環器内科学部門
テ ー マ	成人先天性心疾患の診療
学 習 目 標	成人先天性心疾患の診断・治療・管理の方法について実症例から学び理解を深める。
学 習 方 法	成人先天性心疾患の実症例をとおして、診断、治療、日常の管理法について、成人先天性心疾患カンファランスを通して勉強する。
テ キ ス ト	日本循環器学会 成人先天性心疾患診療ガイドライン (2011年改訂版)
対 象 学 年	4～6 学年
場 所	新館 6 階カンファランス室
曜 日 ・ 時 刻	毎週水曜日・午後 5 時45分
期 間 ・ 回 数	5 月 8 日より12回
単 位	1 単位
単位認定方法	出席率、口頭試問
備 考	

セ ミ ナ ー 44

担 当 教 員	武藤 重明
所 属	腎臓内科学部門
テ ー マ	電解質輸送セミナー
学 習 目 標	腎臓におけるホルモンや薬物による電解質輸送機序を演習問題を通して学習し、ヒトの電解質代謝異常症の病態を理解する。
学 習 方 法	演習問題の解説と討論。
テ キ ス ト	なし
対 象 学 年	3～6 学年
場 所	腎臓内科学医局
曜 日 ・ 時 刻	相談の上決める。
期 間 ・ 回 数	年間15時間
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	出席に応じて担当教員が認定する。
備 考	3 名前後（各学年）

担 当 教 員	安藤 康宏
所 属	腎臓内科学部門
テ ー マ	透析医療の環境からまなぶ
学 習 目 標	現在国内で30万人の慢性腎不全患者が維持透析治療を受けているが、講義やBSLだけでは透析医療の片鱗しか教えることが出来ない。 1年間というセミナー期間のメリットを生かして慢性腎不全保存期から透析導入期～維持期にわたる経過を症例中心に追い、透析という典型的チーム医療の現場はどのように運営されているのか、また透析患者にはどのような心身あるいは社会的問題が生じ、それをどのように解決して行くのかを文献検索や、スタッフ、患者との交流を通じて学ぶ。
学 習 方 法	患者の承諾の元に慢性腎不全保存期末期～透析導入期から1年間の経過を追う。この間に透析内容や薬剤、食事内容の調節などの問題を文献検索を交えながら学んで貰う。患者が透析導入後一般透析施設に転院した場合も、時間と事情の許す限り転院先の透析施設に訪問して経過をフォローする。
テ キ ス ト	透析療法に関する基本的教本を相談の上で選定する。
対 象 学 年	腎臓内科BSLを終了した5～6学年
場 所	主に透析センター（場合により他院訪問を行う）
曜 日 ・ 時 刻	相談の上決定するが、主に水乃至木曜の昼休み
期 間 ・ 回 数	1回1時間、5月～3月で30回程度
単 位	2単位
単位認定方法	レポート内容を主とし、他に患者、透析スタッフからの評価を参考とする。
備 考	受け入れ1名乃至2名。長期間にわたる実際の医療現場でのケース学習であり、通常のBSL以上に配慮すべき事柄は多いため、受講希望者はセミナー開始前（4月末まで）に個別に面談して更に詳しい説明を行った上で学習の意志を確認する。

セ ミ ナ ー 46

担 当 教 員	杉山 幸比古
所 属	呼吸器内科学部門
テ ー マ	胸部X線写真読影
学 習 目 標	・胸部X線写真読影に対して、ある程度の自信がもてるレベルを目指す。 ・主要肺疾患の画像を中心とした鑑別診断を学ぶ。 ・画像を通して、稀な疾患を含む様々な疾患を体験する。 ・1年間でほぼ主要な呼吸器疾患の画像を体験する。
学 習 方 法	1年間に主要な肺疾患の胸部X線像を実際に読影し、その病歴とあわせて臨床的検討を行う。
テ キ ス ト	胸部X線写真のABC（日本医師会編） （必ずしも持っている必要はありません。）
対 象 学 年	6 学年
場 所	本館 4 F セミナー室（エレベーター横）
曜 日 ・ 時 刻	月曜 17:30～18:30
期 間 ・ 回 数	平成25年4月～平成26年1月、隔週1回、約12回
単 位	1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	定員7～8名まで 直接、呼内杉山へ申込んで下さい。

セ ミ ナ ー 47

担 当 教 員	藤本 健一、池口 邦彦、森田 光哉、嶋崎 晴雄、滑川 道人
所 属	神経内科学部門
テ ー マ	臨床神経学
学 習 目 標	毎週、臨床検討会で検討される症例を中心に神経疾患患者の診察法を学ぶとともに、鑑別診断から治療に到る考え方を学ぶ。又、その症例に関連した欧米の文献を読み、英語力のアップをめざす。
学 習 方 法	1) 臨床検討会に参加する。 2) 希望者は研究活動にも参加できる。
テ キ ス ト	症例毎に関連文献を渡す。
対 象 学 年	4～6 学年
場 所	本館 7 階南病棟カンファランスルーム
曜 日 ・ 時 刻	水曜 17:00-18:30
期 間 ・ 回 数	4 月～3 月 30 回
単 位	1 年 3 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 48

担 当 教 員	森田 光哉
所 属	神経内科学部門
テ ー マ	M G H 神経 C P C 輪読
学 習 目 標	New England Journal of Medicine の神経疾患症例 C P C 輪読と検討を通して、神経疾患診療（病態、診断、治療）についての基礎知識と基本的考え方を修得する。
学 習 方 法	症例のコピーを予め学生に配布して担当学生がまず discussion し、ついで全員で検討する。
テ キ ス ト	
対 象 学 年	4 ～ 6 学年
場 所	本館 5 F 神経内科医局
曜 日 ・ 時 刻	金曜日・12：00～13：00（昼食をとりながら）
期 間 ・ 回 数	4 月～ 3 月 25 回
単 位	1 年 3 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	

担 当 教 員	滑川 道人、亀田 知明、益子 貴史
所 属	神経内科学部門
テ ー マ	神経内科臨床講義
学 習 目 標	本セミナーでは、毎週入院患者を直接診察し、それによって神経学的思考を養うことを第一目標とする。本来は臨床講義およびBSLで学ぶべきことだが、自治医大でのそれらは量的に満足いく内容ではないのが現状であり、その補講的な役割を担っている。さらにこのセミナーには、将来の神経学を担うエリート養成の意味も込められている。
学 習 方 法	まず担当教官が疾患についての講義をし、その後に担当教官の指導のもと、学生自身で患者診察をおこなう。最後に15分程度で担当した症例をまとめ、典型所見、非典型所見について議論する。病棟実習となるので、白衣および診察道具を忘れずに持参すること。
テ キ ス ト	特に購入する必要はないが、臨床研修に役立つ優れたものを以下に挙げる。 『神経内科ハンドブック 第4版…鑑別疾患と治療』水野美邦（編）、医学書院 2010年 『標準神経病学 第2版』水野美邦（編）、医学書院 2012年 『臨床のための神経機能解剖学』後藤文男 他 中外医学社 1993年
対 象 学 年	5 学年（神経内科に興味のある学生に限る）
場 所	神経内科（7階西）病棟
曜 日 ・ 時 刻	月曜日 7:00～8:20（参加学生の希望により、変更がありうる）
期 間 ・ 回 数	各学期10回、計30回
単 位	3 単位
単 位 認 定 方 法	出席率を鑑みて、担当教員が判定する。
備 考	参加希望者は滑川医師までメールで連絡すること。 (mnamekaw@jichi.ac.jp) 定員は4名以内とする。

担 当 教 員	嶋崎 晴雄、滑川 道人
所 属	神経内科学部門
テ ー マ	遺伝性神経変性疾患の分子遺伝学
学 習 目 標	最近の分子遺伝学的アプローチの著しい進歩により、これまで殆ど手がかりがつかめなかった遺伝性神経変性疾患は、次々に原因遺伝子が同定され、病態機序の解明が進んでいる。このセミナーでは、遺伝性神経変性疾患の遺伝子診断法を学び、さらに、当研究室で行っている遺伝性神経変性疾患の原因遺伝子・病態機序の解明についての分子遺伝学的アプローチと、疾患の分子レベルでの病態を学ぶ。
学 習 方 法	(1) 遺伝子診断を見学し、方法を学ぶとともに、遺伝子診断がもつ倫理的側面を考える。 (2) 分子遺伝学的実験を実際に行うことにより、基本的実験手技を体得する。 (3) 希望者は遺伝性神経変性疾患の研究活動に参加できる。 (4) 週1回行なっている抄読会（水曜 15:00～）にも参加可能。
テ キ ス ト	特になし（適宜、関連文献を渡す。）
対 象 学 年	3～6 学年
場 所	本館 5 階神経内科学遺伝子研究室（D 5－402）
曜 日 ・ 時 刻	相談してスケジュールを決める。
期 間 ・ 回 数	各学期10回
単 位	各学期 1 単位、1 年 3 単位
単 位 認 定 方 法	出席に応じて担当教員が認定する。
備 考	本セミナーに興味のある学生 2～3 名とする。

担 当 教 員	滑川 道人、益子 貴史
所 属	神経内科学部門
テ ー マ	『病気がみえるVol.7 脳・神経』を10日間で通読しよう！
学 習 目 標	少しでも神経学の苦手意識をなくしてもらうため、新たなセミナーを開講することにした。とりあえず理解する、しないはともかく、このテキストをまるまる1冊、最初から最後まで読破することが目標。 M3における神経内科系統講義で、充分理解できなかったところを再確認し、その後にBSLにスムーズに進めるようにする。さらに、高学年になってから、集中的に神経内科の復習をしたい学生にもお勧め。
学 習 方 法	早朝1回90分、10日間（2週間）という限られた時間内で、下記テキストを輪読し、内容を把握する。予定では1回に約50ページ進む（1頁1分強！）。予習も復習も要求しない。とりあえずこの期間に参加し、まるまる1冊目を通すのが目標。初めての試みなので、うまくいくかは判らないが、問題が生じれば、その都度変更しよう。
テ キ ス ト	『病気がみえるVol.7 脳・神経』Medic Media, 2011年 （テキストは各自、必ず購入すること） 「へ？ こんな簡単なテキスト」と侮るなかれ。イラストが多だけでなく、内容もよくまとまっている。筆者自身、通読するのは予想以上に大変だった。
対 象 学 年	全学年（神経内科が苦手だが、何とかしなくちゃ！ という、ダメなりに積極的な学生が対象）
場 所	参加人数によって場所を決定する。5階セミナー室が有望。
曜 日 ・ 時 刻	月～金曜日 7:00～8:20、2週間連続、計10回で1コース。
期 間 ・ 回 数	各学期1コース（日程調整中）、計3回予定。
単 位	1コースごとに1単位
単 位 認 定 方 法	1コース（全10回）全出席で単位認定
備 考	参加希望者は益子医師までメールで連絡すること。 (r0748tm@jichi.ac.jp) 開催時期は、試験期間にかからないように配慮します。 定員制限なし。多くても可。ただしひやかしてお断り。 このセミナー開催時期は「神経内科臨床講義」は時間変更する予定。

セ ミ ナ ー 52

担 当 教 員	小澤 敬也、室井 一男、永井 正、森 政樹、鈴木 隆浩、 大嶺 謙、翁 家 国、藤原慎一郎、
所 属	血液学部門
テ ー マ	骨髓像・血液像の見方
学 習 目 標	血球の形態学的観察は血液疾患診察の基本である。正常細胞と異常細胞の区別をできるようにし、診断能力を養う。
学 習 方 法	顕微鏡テレビ、スライド、パソコンなどを用いて、血球の見方を学ぶ。
テ キ ス ト	血液細胞アトラス（三輪史朗、渡辺陽之輔 共著）（文光堂）
対 象 学 年	4 ～ 6 学年
場 所	血液学部門医局 あるいは本館 4 階セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	週 1 回、午後 5 時～ 6 時30分
期 間 ・ 回 数	1 学期 5 月～ 7 月（10回）、3 学期 1 月～ 3 月（10回）
単 位	各学期 1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	

担 当 教 員	石橋 俊
所 属	内分泌代謝学部門
テ ー マ	診断学再考
学 習 目 標	一般臨床において重要性の高い診断手技を EBM の立場から復習する。
学 習 方 法	指定図書の抄読と随時病棟・外来実習
テ キ ス ト	参考図書 ・ DL Simel, D Rennie The Rational Clinical Examination: Evidence-Based Clinical Diagnosis McGraw-Hill ・ DeGowin's Diagnostic Examination 9th ed. McGraw-Hill - McGee Evidence based Physical Diagnosis, 3rd ed. Elsevier Saunders 資料はコピーを配布する。
対 象 学 年	4 ～ 6 学年
場 所	内分泌代謝科カンファレンスルーム
曜 日 ・ 時 刻	相談して決める。
期 間 ・ 回 数	10回
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	目標達成度または出席
備 考	

担 当 教 員	岩本 雅弘
所 属	アレルギー膠原病学部門
テ ー マ	リウマチ分野の症例報告
学 習 目 標	英文症例報告を読み、医学英語に慣れること。
学 習 方 法	BMJ Case Reportsからリウマチ分野の症例報告を学習する。
テ キ ス ト	なし
対 象 学 年	4 ～ 5 学年
場 所	アレルギー膠原病学部門医局
曜 日 ・ 時 刻	火曜日 午前 7 : 30 ～ 8 : 30
期 間 ・ 回 数	週 1 回（期間は皆で相談）
単 位	1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	3 名以内

セ ミ ナ ー 55

担 当 教 員	大槻 マミ太郎、村田 哲、小宮根 真弓、前川 武雄、 菅井 順一、平本 力
所 属	皮膚科学
テ ー マ	遺伝子から美容まで
学 習 目 標	皮膚科学の幅広さ、面白さを内科的および外科的側面、病理組織学、細胞や遺伝子レベルの基礎研究、美容関連領域に至るまで、様々な見地から学ぶ。
学 習 方 法	スライドを用いた学習以外に、臨床の見学や実習なども行う。
テ キ ス ト	Visual Dermatology（月刊） 秀潤社 新皮膚科レジデント、戦略ガイド 診断と治療社 What's NEW in 皮膚科学 メディカルレビュー社 など
対 象 学 年	3～6 学年
場 所	皮膚科医局（臨床実習は別）
曜 日 ・ 時 刻	初回は火曜日午後 6 時半に医局に集合、以降は随時
期 間 ・ 回 数	9～12月の中で計 5～10回（15時間） 人数が多い場合は随時調整
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	口頭試問
備 考	2 名以上 4 名以下

セ ミ ナ ー 56

担 当 教 員	加藤 敏
所 属	精神医学
テ ー マ	精神分析
学 習 目 標	人間が他人や世界、事物と関係をもちながら日常生活を歩んでいくなかで、どんな心の動きが展開しているのか、そのありようを精神分析の見地から考えてみたい。これをとおり、医師（医療者）—患者関係を検討することも目指したい。
学 習 方 法	単行本の輪読
テ キ ス ト	無意識の形成物 ジャック・ラカン著 岩波書店
対 象 学 年	全学年
場 所	本館 5 階セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	月曜（毎週）・17：30～19：30
期 間 ・ 回 数	各学期10回 1 学期 5 月～7 月（10回） 2 学期 9 月～12月（ 〃 ） 3 学期 1 月～3 月（ 〃 ）
単 位	各学期 1 単位、1 年 3 単位
単 位 認 定 方 法	2／3 以上の出席
備 考	

担 当 教 員	加藤 敏
所 属	精神医学
テ ー マ	精神病理学
学 習 目 標	人間の身体、精神双方の異常をきたす統合失調症、うつ病の病態及び治療について理解を深め、これをとおり心身統一体としての人間存在のありようについて考えていきたい。
学 習 方 法	単行本の輪読
テ キ ス ト	精神医学の構造力動的基礎、W.ヤンツァーリク著 学樹書院
対 象 学 年	4～6 学年
場 所	本館 5 階セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	木曜（毎週）・17：30～19：30
期 間 ・ 回 数	各学期（10回） 1 学期 4 月～6 月（10回） 2 学期 9 月～12 月（ 〃 ） 3 学期 1 月～3 月（ 〃 ）
単 位	各学期 1 単位、1 年 3 単位
単 位 認 定 方 法	2／3 以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 58

担 当 教 員	阿部 隆明、大塚 公一郎、岡島 美朗
所 属	精神医学
テ ー マ	ドイツ語圏精神病理学の研究
学 習 目 標	精神医学の中核をなす精神病理学の現状を学び、同時に、テキストの読解をとおしてドイツ語の実力を養うことをめざす。
学 習 方 法	文献の輪読
テ キ ス ト	ドイツ語圏の最新文献からそのつど選択し、コピーして参加者に配付する。
対 象 学 年	4 ～ 6 学年
場 所	本館 5 階セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	金曜日・18：00～19：00
期 間 ・ 回 数	毎年 4 月～ 3 月・30回
単 位	各学期 1 単位、1 年 3 単位
単 位 認 定 方 法	4 ／ 5 以上の出席とドイツ語読解力
備 考	

セ ミ ナ ー 59

担 当 教 員	阿部 隆明
所 属	子どもの心の診療科
テ ー マ	小児精神医学
学 習 目 標	小児精神医学の基礎知識を身につけると同時に、テキストの読解をとおして英語の実力を養うことをめざす。
学 習 方 法	英語の教科書の輪読
テ キ ス ト	CHILD AND ADOLESCENT PSYCHIATRY (Dorothy Stubbe著)
対 象 学 年	4～6 学年
場 所	とちぎ子ども医療センター 2階ミーティングルーム
曜 日 ・ 時 刻	水曜日・17:00～18:30
期 間 ・ 回 数	毎年4月～3月・30回
単 位	各学期1単位、1年3単位
単 位 認 定 方 法	4／5以上の出席と英語読解力
備 考	

セ ミ ナ ー 60

担 当 教 員	山形、杉江、森本、河野、南、森、金井、矢田、熊谷、小池、 門田、小高、佐藤(智)、伊東、齋藤(貴)
所 属	小児科学
テ ー マ	小児科症例検討会
学 習 目 標	小児疾患の診断の進め方について理解する。 小児疾患の治療についての考え方を学ぶ。 病態の解析のしかたを学ぶ。
学 習 方 法	診断・治療等の困難な症例について共に考え、討論する。 (1) 症例プレゼンテーションのしかたを学ぶ。 (2) 問題点を明確にするプロセスを学ぶ。 (3) 疾患についての最新の知見を学ぶ。
テ キ ス ト	毎回プリントが配布される。
対 象 学 年	5～6 学年
場 所	とちぎ子ども医療センター 2F カンファレンスルーム
曜 日 ・ 時 刻	木曜日・18:00～19:30
期 間 ・ 回 数	各学期10回
単 位	各学期1単位、1年3単位
単位認定方法	80%以上の出席
備 考	毎回プリントを配布

セ ミ ナ ー 61

担 当 教 員	山形、杉江、森本、河野、南、森、金井、矢田、熊谷、小池、 門田、小高、佐藤(智)、伊東、齋藤(貴)
所 属	小児科学
テ ー マ	小児科リサーチカンファレンス
学 習 目 標	・小児疾患の最新の知見について学ぶ。 ・小児疾患各分野の臨床的、基礎的研究の動向を知る。 ・研究の方法論を理解する。
学 習 方 法	教員のプレゼンテーションを聞いて理解し、討論するトピックに関連した文献を検索し、理解を深めると共に、問題点の解明プロセスを学ぶ。
テ キ ス ト	無し 適宜プリントが配布される。
対 象 学 年	5～6 学年
場 所	とちぎ子ども医療センター 2Fカンファレンスルーム
曜 日 ・ 時 刻	第3木曜日 18:00～19:30
期 間 ・ 回 数	各学期5回
単 位	各学期1単位、1年3単位
単 位 認 定 方 法	80%以上の出席
備 考	

担 当 教 員	佐田 尚宏
所 属	消化器・一般外科学部門
テ ー マ	膵癌を中心とした膵・胆道のＣＴ診断
学 習 目 標	消化期癌の中で、予後の最も悪い膵癌の画像診断を中心に、膵・胆道のＣＴ診断を基礎から学ぶ。
学 習 方 法	JUMP電子カルテシステム上より症例を選択し、腹部ＣＴの系統的読影法を体得する。
テ キ ス ト	JUMP（電子カルテ）
対 象 学 年	５・６学年
場 所	消化器一般外科新館５Ｆセミナー室
曜 日 ・ 時 刻	隔週金曜日 p.m. 5:30 ～ 7:00
期 間 ・ 回 数	15時間、10回
単 位	1単位
単位認定方法	出席およびセミナー時のプレゼンテーション
備 考	複数の学生の参加を希望します。

担 当 教 員	前田 貢作
所 属	小児外科学部門
テ ー マ	小児医療を熱く語ろう！ ―小児外科の実際―
学 習 目 標	現在の我が国の小児医療の現況を知ってもらう。 外科領域の中でも専門性の高い小児外科がどのようなものなのか、 また小児の救急医療の現状はどうかを実体験してもらい、将来小児 医療をめざす動機付にしてもらいたい。 関西出身のひとには関西弁でしゃべれる場にしたいですが、もちろ ん他県の人でも自分たちのことばでフリーにディスカッションしま しょう。
学 習 方 法	小児医療とは、小児外科医とはについて学習する。 日常診療で経験した興味深い症例について検討すると共に、関連す る学術論文を抄読する。また文献の探し方についても勉強する。 検討症例について発表し、そのノウハウを学習する。
テ キ ス ト	Essentials of Pediatric Surgery 標準小児外科学 等
対 象 学 年	4～6 学年
場 所	とちぎ子ども医療センターカンファレンス室および小児外科教授室
曜 日 ・ 時 刻	相談の上
期 間 ・ 回 数	4 月から12月まで年10回程度。1 回 1 時間半くらいの予定。
単 位	1 単位
単位認定方法	出席による
備 考	

担 当 教 員	水田 耕一、浦橋 泰然
所 属	移植外科学部門
テ ー マ	移植医療について考える
学 習 目 標	改正臓器移植法の施行により我が国の移植治療も変化しつつある。小児生体肝移植の術前術後管理を通して、肝移植医療を学び、また国内外の移植医療の最新の実際を紹介し、移植医療について知識を深める。
学 習 方 法	①小児生体肝移植に手洗い実習で参加する。 ②移植医療に関する講演会に参加する。 ③移植医療に関する報道番組、テレビドラマを鑑賞する。 ④脳死移植、生体移植のDVD鑑賞を行う。
テ キ ス ト	Transplantation of the Liver WC Madding , ER Shiff , ME Sand Third Edition Lippincott Williams Wilkins 及びDVD教材など
対 象 学 年	4 ～ 5 学年（できれば各学年 2 人ずつ）
場 所	外科資料室あるいは外科応接室
曜 日 ・ 時 刻	相談の上決める
期 間 ・ 回 数	月に 1 回
単 位	1 単位
単位認定方法	出席
備 考	

担 当 教 員	三澤 吉雄
所 属	心臓血管外科学部門
テ ー マ	臨床論文の書き方（症例報告）
学 習 目 標	臨床医には経験した症例を学会報告などで済ますだけでなく、論文として形として残すことに大きな意味がある。本セミナーでは、臨床医であるならば、先ず最初に経験するであろう、症例報告の書き方を実践から学ぶことを目標とする。
学 習 方 法	臨床論文から定型的な症例報告を吟味し、その報告の意義などを探る。先ずは和文論文、ついで英文論文へと展開する。症例報告の投稿形式・投稿方法を理解する。一応の形式を理解した後に、実際の症例を論文形式に書きおろす。優れた論文は、関連学術雑誌に投稿する。
テ キ ス ト	特に定めない。
対 象 学 年	4～6 学年
場 所	心臓血管外科学部門医局など
曜 日 ・ 時 刻	相談の上決定する。
期 間 ・ 回 数	平成25年 6 月～平成25年10月（10回）（変更可）
単 位	2 単位
単 位 認 定 方 法	4／5 以上の出席
備 考	この2年間では7論文（6邦文、1英文）が掲載された。

担 当 教 員	齊 藤 力
所 属	心臓血管外科学部門
テ ー マ	大動脈瘤に対する血管内治療
学 習 目 標	大動脈瘤に対する治療法としての大動脈ステントグラフト内挿術について、総合的に学習し、臨床的な位置づけを理解する。
学 習 方 法	大動脈瘤について、その画像診断、計測法、留置手順、臨床成績を実際の症例画像を用いて学習する。また手術見学を行い、さらに最近の話題を含めて文献的な理解を進めていく。
テ キ ス ト	各種ステントグラフト取扱説明書
対 象 学 年	4 ～ 5 学年
場 所	心臓血管外科学部門医局など
曜 日 ・ 時 刻	相談のうえ決定する
期 間 ・ 回 数	平成25年 4 月～平成26年 3 月（計15時間）
単 位	1 単位
単位認定方法	出席
備 考	

セ ミ ナ ー 67

担 当 教 員	河田 政明
所 属	とちぎ子ども医療センター・心臓血管外科
テ ー マ	先天性心疾患を理解する
学 習 目 標	今までなじみのなかった種々の先天性心疾患について、形態、生理、臨床などの理解を深める。
学 習 方 法	上記について代表的論文の抄読会や、討論を中心に多面的アプローチ（形態、病態生理、歴史、実際の管理、手術や関連事項など）を行う。
テ キ ス ト	適宜プリント、論文のコピーなどを配布
対 象 学 年	全学年
場 所	とちぎ子ども医療センター 3 F P I C U 面談室
曜 日 ・ 時 刻	火曜日18：30～19：30
期 間 ・ 回 数	平成25年 5 月～（15回程度）
単 位	2 単位
単 位 認 定 方 法	4 / 5 以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 68

担 当 教 員	遠藤 俊輔、手塚 憲志、山本 真一
所 属	呼吸器外科学部門
テ ー マ	肺移植
学 習 目 標	ラットを用いて肺移植を行い、肺移植に伴う循環動態を研究する。
学 習 方 法	ラットに麻酔をし、気管挿管、静脈、動脈ライン留置後開胸し、肺移植を行い、肺微小循環を観察する。
テ キ ス ト	Microcirculation (ed.G.Kaley & B.M.Altura)
対 象 学 年	4 ～ 5 学年
場 所	微小循環研究室
曜 日 ・ 時 刻	火曜日18：00～
期 間 ・ 回 数	平成25年 4 月～平成26年 3 月
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	出席に応じて担当教員が認定する
備 考	2 名

セ ミ ナ ー 69

担 当 教 員	渡辺 英寿、小黒 恵司、五味 玲、益子 敏弘、横田 英典、山口 崇、中嶋 剛
所 属	脳神経外科学
テ ー マ	脳神経外科を楽しむ
学 習 目 標	脳神経外科領域では10年前に比し診断・治療方法が確実に進んでいる。このセミナーでは講義やBSLでは触れることのできない、脳神経外科の奥深い楽しい世界を体験することを目標とする。
学 習 方 法	脳神経外科の様々な分野に触れる。 ・ X線写真等補助検査の読撮 ・ 手術見学などの臨床の場の経験 ・ 近赤外線を用いた脳科学の実験 ・ 脳腫瘍病理標本の観察 ・ てんかんや機能脳神経外科の基礎と臨床
テ キ ス ト	なし
対 象 学 年	全学年（3～6学年が望ましい）
場 所	本館7Fセミナー室及び脳神経外科医局
曜 日 ・ 時 刻	木曜 19:00～20:00
期 間 ・ 回 数	各学期10回で3学期（計30回を予定）
単 位	各学期1単位
単 位 認 定 方 法	4／5以上の出席
備 考	テキストの用意は不要。 気楽なゼミです。皆さんでどうぞ。

セ ミ ナ ー 70

担 当 教 員	東 高弘、他教員
所 属	整形外科科学
テ ー マ	整形外科の画像診断と病態、外傷のプライマリーケア
学 習 目 標	①X線、MR I 像の解釈が出来るようにする。 ②各部位の外傷、スポーツ障害等の特徴と治療法（特に初期治療）を理解する。 ③プライマリーケアでやってはいけないことを理解する。
学 習 方 法	学生参加型のクルズス
テ キ ス ト	特にない。 各セミナー時に資料を配布する。
対 象 学 年	4 ～ 6 学年
場 所	整形外科科学教室図書室
曜 日 ・ 時 刻	火曜日 午後6時～7時30分
期 間 ・ 回 数	5月頃より開始 年10回（日時は相談の上決定する）
単 位	年1単位
単位認定方法	出席数4／5以上
備 考	連絡係を1名決めておく事。

セ ミ ナ ー 71

担 当 教 員	吉川 一郎
所 属	小児整形外科
テ ー マ	医師の哲学
学 習 目 標	医師となって活躍するための人間感、倫理観を養う。
学 習 方 法	準備した書籍の一部（抜粋）を輪読する。
テ キ ス ト	当方で準備する
対 象 学 年	5～6 学年
場 所	新館 2 階 整形外科セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	月 1 回 水曜日 午後 5 時～（詳しくは学生と相談した上で決定する）
期 間 ・ 回 数	4 月～ 1 月
単 位	年 1 単位
単 位 認 定 方 法	出席数 4 / 5 以上
備 考	定員 6 名まで 連絡係を一人決めておくこと

担 当 教 員	鈴木 光明、嵯峨 泰
所 属	産科婦人科学
テ ー マ	腹膜播種、血管新生抑制を標的とした卵巣癌治療
学 習 目 標	卵巣癌は進行例が多いため、手術時にすでに腹膜播種を来している場合が多い。腹膜播種、血管新生抑制を標的とした、いわゆる dormancy therapy がこれからのトピックとなろう。このような新しい癌治療の概念と最新の知見を勉強する。
学 習 方 法	最新の文献を中心とした抄読が主たる学習方法である。細胞培養、ヌードマウス、遺伝子導入等を見学する。研究室の成績についてディスカッションする。
テ キ ス ト	最新の文献を配布する。
対 象 学 年	4 ～ 5 学年
場 所	産婦人科医局
曜 日 ・ 時 刻	火曜日・16：30～18：00
期 間 ・ 回 数	隔週 1 学期 5 回 2 学期 5 回
単 位	1 年 1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	5 名程度 テキスト購入不要

担 当 教 員	大口 昭英
所 属	産科婦人科学講座
テ ー マ	妊娠高血圧症候群
学 習 目 標	妊娠高血圧症候群は、妊娠中に発生する①妊娠高血圧、②妊娠高血圧腎症、③加重型妊娠高血圧腎症、④子癇の4つを総称した名称である。日本人では、妊婦の5～10%に発症し、周産期死亡の約30%、母体死亡の約25%に関連する。自治医大では年間100例程度の疾患を扱っている。 妊娠高血圧症候群の発生原因はいまだに解明されていない。以前から、この病態は初産婦に多く発生するところが知られており、母児間の免疫寛容の異常の関連が推測されている。妊娠高血圧症候群に関連した論文は年間1000例程報告される。その中から月に1編を選んで抄読する。
学 習 方 法	原典精読
テ キ ス ト	当方にて資料（PDF）を提供。
対 象 学 年	全学年
場 所	産婦人科セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	第3金曜日 18:30～
期 間 ・ 回 数	通年、計10回（8月、3月を除く）
単 位	1単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	妊娠高血圧症候群関連のPubMed掲載論文（これまで約20編） 主な論文： 1. Ishibashi O, Ohkuchi A, Ali MM, et al. Hydroxysteroid (17-β) dehydrogenase 1 is dysregulated by miR-210 and miR-518c that are aberrantly expressed in preeclamptic placentas: a novel marker for predicting preeclampsia. Hypertension 2012; 59: 265-73. 2. Ohkuchi A, Hirashima C, Matsubara S, et al. Threshold of soluble fms-like throsine kinase 1/placental growth factor ratio for the imminent onset of preeclampsia. Hypertension 2011; 58: 859-66. (平成24年度自治医科大学優秀論文賞) 3. Suzuki H, Ohkuchi A, Matsubara S, et al. Effect of recombinant placental growth factor 2 on hypertension induced by full-length mouse soluble fms-like tyrosine kinase 1 adenoviral vector in pregnant mice. Hypertension 2009; 54: 1129-35. (平成22年度自治医科大学優秀論文賞、2009年 SGI Award、平成21年度日本産科婦人科学会優秀論文賞) 現在の研究テーマ： 現在、バイオイメージング部（JMU）と自然炎症、妊娠免疫について、日本医科大学分子解剖学講座とmiRNAについての共同研究が進行中。その他、妊娠高血圧症候群のバイオマーカーの開発、赤血球膜脂質構成に関する研究、家庭血圧測定による早期発見の開発もテーマである。

担 当 教 員	八木澤 隆
所 属	腎臓外科学部門
テ ー マ	臓器不全の代替治療（腎不全を例に）
学 習 目 標	代替治療（人工腎臓、腎移植）の進歩により、今や腎不全は死に至る病ではなくなった。腎不全の病態、人工腎臓、腎移植の原理、治療の実際などを学ぶ。
学 習 方 法	最新の review paper また original paper を題材とする。また実際を紹介する。
テ キ ス ト	おもに英文雑誌の review paper
対 象 学 年	3 ～ 5 学年
場 所	腎臓外科学教授室
曜 日 ・ 時 刻	選択者と相談
期 間 ・ 回 数	月に1 ～ 2 回
単 位	1 単位
単位認定方法	参加
備 考	

セ ミ ナ ー 75

担 当 教 員	市村 恵一
所 属	耳鼻咽喉科学
テ ー マ	プレゼンテーション技術の習得
学 習 目 標	①論文を理解できるように読み込む ②人前でプレゼンテーションが効果的に出来る技術を学ぶ
学 習 方 法	論文を精読し、内容を十分理解した上でそれをまとめてプレゼンテーションファイルを作成し、自らが発表する形式によりプレゼンテーション技術を習得する
テ キ ス ト	耳鼻咽喉科領域および広範囲の科学論文を適宜配布
対 象 学 年	3～6 学年
場 所	耳鼻咽喉科学教室内
曜 日 ・ 時 刻	月曜または火曜18：30～19：30
期 間 ・ 回 数	1～3 学期で20コマ
単 位	1 年 2 単位
単 位 認 定 方 法	4／5 以上の出席
備 考	受け入れ人数に指定なし

担 当 教 員	西野 宏
所 属	耳鼻咽喉科学
テ ー マ	全身疾患における耳鼻咽喉科
学 習 目 標	耳鼻咽喉・頭頸部領域の症状を中心に全身疾患との関係を Problem-oriented に学習する。
学 習 方 法	・ テーマを提示し、課題を与える。 ・ 配布された資料を自己学習 ・ 担当教官と討議。 ・ 提示した課題をセミナー学生としてまとめ、日本耳鼻咽喉科学会 栃木県地方部会で代表者が口演（発表7分、質疑応答3分） 〔テーマ例〕 ・ 呼吸困難 ・ 嗄声 ・ 頸部リンパ節腫脹 ・ めまい ・ 鼻出血 ・ 嚥下障害
テ キ ス ト	資料をPDFファイルで配付。
対 象 学 年	4～6 学年
場 所	耳鼻咽喉科学教室内、新館 8 A 病棟カンファレンス室
曜 日 ・ 時 刻	月・水のいずれかで1日1時間30分
期 間 ・ 回 数	1 学期 4 回、2 学期 4 回、3 学期 2 回、計10回
単 位	1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	

担 当 教 員	西野 宏
所 属	耳鼻咽喉科学
テ ー マ	耳鼻咽喉領域の症状からみた診断の進めかた
学 習 目 標	耳鼻咽喉・頭頸部領域の症状から検査・診断の進めかたを学ぶ。 例えば嚥下障害や呼吸困難などプライマリーケアで遭遇する症状において、耳鼻咽喉科領域に限らず総合医としての検査・診断・治療技術を学ぶ。
学 習 方 法	・実際の症例を呈示し、検査・診断方法を討議する。その際に配付された資料を利用し理解を深める。 ・患者本人同意を得た後に、実際の入院患者において実技実践をおこなう。 ・複数年にわたるセミナー受講生は、適切なテーマの症例をまとめ、日本耳鼻咽喉科学会栃木県地方部会で口演（発表7分、質疑応答3分）
テ キ ス ト	資料をPDFファイルで配付。
対 象 学 年	4～6学年
場 所	耳鼻咽喉科教室内
曜 日 ・ 時 刻	月・水のいずれか1日で1時間30分
期 間 ・ 回 数	1学期4回、2学期4回、3学期2回、計10回
単 位	1単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	

担 当 教 員	竹内 護、五十嵐 孝、井上莊一郎、堀田 訓久、佐藤 正章
所 属	麻酔科学
テ ー マ	臨床麻酔学およびペインクリニック
学 習 目 標	1. 心疾患、肺疾患、内分泌疾患などを合併する患者の手術において、麻酔がどのような影響を及ぼすかを理解できる。 2. 周術期の患者管理を理解できる。 3. 麻酔と偶発症を理解できる。 4. ペインクリニックを理解できる。
学 習 方 法	1. 関連文献によって学習する。 2. 症例検討会に参加し、臨床例について具体的に学習する。
テ キ ス ト	プリントを配布する。 参考図書：Anesthesiology, British Journal of Anaesthesia, Basics of Anesthesia, Anesthesia and Analgesia, Regional Anesthesia, New Eng J Med, 他
対 象 学 年	3～6 学年
場 所	中央手術部カンファランスルーム
曜 日 ・ 時 刻	木または金曜日 18時～
期 間 ・ 回 数	4 月～3 月、週 1 回
単 位	2 単位（年間30回 30コマ、30時間）
単位認定方法	4／5 以上の出席
備 考	受け入れ人数：1～6 人

担 当 教 員	佐藤 正章
所 属	麻酔科学
テ ー マ	患者急変対応
学 習 目 標	1. 患者急変に対応できる。 2. 成人教育の必要性を理解できる。 3. AHA（アメリカ心臓協会）－BLS（Basic Life Support：一次救命処置）のインストラクター候補になれる。 4. 卒業後にAHA-ACLS（Advanced Cardiovascular Life Support：二次救命処置）のインストラクター候補になれる。
学 習 方 法	1. ILCOR（国際蘇生連絡協議会）等で検証された基本的文献の学習 2. CPRや除細動などのスキルの取得 3. 高機能フルスケールシミュレーターを用いた検証
テ キ ス ト	1. AHA BLSヘルスケアプロバイダーインストラクターパッケージ（中山書店） 2. AHA ACLSインストラクターパッケージ（シナジー）
対 象 学 年	全学年
場 所	中央手術部学生実習室
曜 日 ・ 時 刻	木または金曜日 18時～
期 間 ・ 回 数	4月～3月、月1～2回
単 位	1単位（年15回、15コマ、15時間）
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	受け入れ人数：6名程度

担 当 教 員	布宮 伸
所 属	集中治療医学
テ ー マ	集中治療の現状
学 習 目 標	集中治療医学の世界的な潮流に触れ、集中治療が現在抱える問題点や今後の研究課題などを検討する。またその過程を通して、臨床的解決方法を見出す習慣を身に付ける。
学 習 方 法	Current Opinion in Critical Care に掲載される systematic review article の中から、毎回 1 編を選び、全員で輪読しながら討論を行う。 適宜、臨床事例を供覧する。
テ キ ス ト	文献をコピーし、事前に配布する。
対 象 学 年	4 学年以上が望ましい。
場 所	本館西棟 2 F 集中治療医学医局図書室
曜 日 ・ 時 刻	隔週月曜日 18時～19時
期 間 ・ 回 数	4 月から15回
単 位	1 単位
単位認定方法	出席回数と討論内容
備 考	

担 当 教 員	紺野 啓、谷口 信行、鯉渕 晴美、宮本 倫聡、津田 恭子
所 属	臨床検査医学
テ ー マ	超音波診断の理論と実践（エコーゼミ）
学 習 目 標	1) 各領域の超音波診断に必要な基礎的知識を身につける。 2) 腹部、心臓など領域ごとに基本的な検査手技を身につける。 3) 各領域における代表的な異常発見を理解する。 4) 適切なレポート作成やプレゼンテーションの方法を身につける。 5) 医療用超音波（超音波検査）に関する最新の知識に触れる。
学 習 方 法	1) テーマごとのミニレクチャーにより超音波診断に関する知識を学ぶ。 2) お互いに検者および被験者となって実習を行い、基本的検査手技を身につける。 3) 症例検討を通じてレポート作成とプレゼンテーションの方法を学ぶ。
テ キ ス ト	必要に応じて適宜指示する。 その他必要な資料は適宜配布する。
対 象 学 年	5 学年
場 所	臨床検査医学医局および中央検査部検査室
曜 日 ・ 時 刻	火曜日または水曜日 午後 5:30～ 6:30
期 間 ・ 回 数	5 月～11 月（20 コマ）
単 位	2 単位
単 位 認 定 方 法	出席数、レポート、プレゼンテーション、理解度・到達度を総合的勘案し評価する。
備 考	10名以内。 熱意のある学生には、関連学会・研究会等で発表を行う機会を与えられる場合がある。

担 当 教 員	山田 俊幸、小谷 和彦、鯉渕 晴美、宮本 倫聡
所 属	臨床検査医学
テ ー マ	検査値から読み解く病態生理学
学 習 目 標	血液検査や生化学検査のデータが意味する背景を理解し、検査値を病態解析に活用できるようになる。
学 習 方 法	症例の基本的な検査データだけを呈示し、何処まで病態を読み取れるかのトレーニングをする（reversed CPC）。
テ キ ス ト	別途紹介する。
対 象 学 年	5 学年
場 所	臨床検査医学実習室
曜 日 ・ 時 刻	夕方1時間程度。詳細は相談の上、決める。
期 間 ・ 回 数	5 月～12月、月2～3 回程度（コースワークとして全15回）
単 位	2 単位
単 位 認 定 方 法	出席と目標の達成度により評価する。
備 考	5～6 名程度受け入れる。

担 当 教 員	小谷 和彦、山田 俊幸
所 属	臨床検査医学
テ ー マ	Clinical Chemistry を読む
学 習 目 標	米国臨床化学会の機関誌には、学生向けの「検査値を読み解く」あるいは「臨床検査医学的な考え方とは何か」について学ぶ論文が収載されている。これを題材とする英文抄読会を行い、英文に慣れるとともに、臨床検査医学的思考法を習得する。
学 習 方 法	指定された論文を訳し、これに基づいてセミナー参加者間で相互ディスカッションを行う。
テ キ ス ト	適宜紹介する。
対 象 学 年	5 学年
場 所	臨床検査医学実習室
曜 日 ・ 時 刻	夕方 1 ～ 2 時間程度。相談の上で詳細は決める。
期 間 ・ 回 数	5 月～12 月、月 1 ～ 2 回程度（コースワークとして全10回）
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	出席と目標の達成度により評価する。
備 考	若干名を受け入れる。

担 当 教 員	阿野 正樹、米川 力、伊澤 祥光、鈴木 正之
所 属	救急医学
テ ー マ	救急集中治療
学 習 目 標	・ 救急外来を受診する多彩な患者に対して適切なトリアージと緊急処置が実践できるようになる。 ・ 様々な重症度の救急患者に対する初療から退院までの診療について学ぶ。
学 習 方 法	・ シミュレーショントレーニング ・ 症例検討 ・ 文献の抄読
テ キ ス ト	・ 特に定めない
対 象 学 年	4 ～ 6 学年
場 所	救急医学医局
曜 日 ・ 時 刻	相談の上、決定する。
期 間 ・ 回 数	H23年 4 月～H24年 3 月 月 1 回程度
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	出席及び学習態度
備 考	

セ ミ ナ ー 85

担 当 教 員	岸 浩一郎
所 属	情報センター
テ ー マ	神経情報学研究の現状
学 習 目 標	神経情報学（ニューロインフォマティクス）研究において現在何が問題になっているかを理解し、さらに学習や記憶などの脳の高次機能を研究する方法を学ぶ。
学 習 方 法	テキストの輪読とコンピュータ・シミュレーション
テ キ ス ト	脳の研究（無名舎、2001） 脳を観る（日経サイエンス社、1997） 脳の計算理論（産業図書、1996） 脳とニューラルネット（朝倉書店、1994） Understanding Neural Networks Vol.1,2（MIT Press, 1992） 各種科学誌文献、及びコンピュータ・プログラム
対 象 学 年	1 ～ 5 学年
場 所	医学情報学研究室（記念棟10階）及びコンピュータ演習室（記念棟11階）
曜 日 ・ 時 刻	水曜日または金曜日・16：30～18：00（変更もあり得る）
期 間 ・ 回 数	各学期10回
単 位	各学期1単位、1年3単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	10名以内

担 当 教 員	岸 浩一郎
所 属	情報センター
テ ー マ	統計情報学の現状
学 習 目 標	統計情報学の現状を理解し、国際標準の統計パッケージ（SAS、SPSS）とMS／Excelを駆使して、初級から上級までの統計分析テクニックを学ぶ。
学 習 方 法	テキストを用いて統計分析手法を学習し、その例題についてコンピュータを用いて実際に統計分析を行なう。（テキスト・資料等は医学情報学が準備します。）
テ キ ス ト	SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析（第2版）（東京図書、2007） SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）（東京図書、2007） SPSSでやさしく学ぶ多変量解析（第3版）（東京図書、2006） SPSSによる統計処理の手順（第5版）（東京図書、2007） SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（第2版）（東京図書、2007） 他
対 象 学 年	1～5学年
場 所	記念棟10階・医学情報学またはコンピュータ演習室
曜 日 ・ 時 刻	水曜日または金曜日・16：30～18：00（変更もあり得る）
期 間 ・ 回 数	各学期10回
単 位	各学期1単位、1年3単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	20名以内

担 当 教 員	河野 龍太郎、鈴木 義彦、浅田 義和
所 属	メディカルシミュレーションセンター
テ ー マ	ヒューマンエラー事象分析手法：Im SAEFR
学 習 目 標	1. ヒューマンエラー発生メカニズムを学ぶ 2. エラー対策の考え方を学ぶ 3. 分析に基本的考え方を学ぶ 4. 分析手順を学ぶ 5. 対策立案方法を学ぶ
学 習 方 法	1. 文献調査 2. 講義 3. 分析実習
テ キ ス ト	必要なものはコピー等で提供する。
対 象 学 年	全学年
場 所	メディカルシミュレーションセンター
曜 日 ・ 時 刻	相談のうえ決定
期 間 ・ 回 数	2学期10回
単 位	1単位
単 位 認 定 方 法	出席に応じて認定する
備 考	20名程度、職員、看護学部生も参加歓迎 ヒューマンエラーの関係した事例の分析において重要なことは、ヒューマンエラー発生メカニズムを理解することであり、Im SAEFR は、ヒューマンエラー発生メカニズムに着目し、エラー行動を基本に分析を進めていく。 Im SAEFR は、(1) 安定した分析結果が得られる、(2) 効率的に背後要因を抽出できる、(3) 多面的で多様な対策を考えるためのガイドラインがある、(4) 時間や人員などのリソースに応じて分析レベルを選択できる、などの特徴を持った、新しいヒューマンエラー事象分析手法である。 連絡先：rkawano@jichi.ac.jp

担 当 教 員	浅田 義和
所 属	メディカルシミュレーションセンター
テ ー マ	医療のためのマインドマップ基礎講座
学 習 目 標	英国の教育者・Tony Buzan 氏の開発した思考技術であるマインドマップに関して学習する。マインドマップの書き方だけではなく、思考の整理や発想法としての応用手法に関するディスカッション等と合わせて実践的な演習を行う。
学 習 方 法	以下の日程で計画しているが、参加者との相談で最終決定。 ・ガイダンス（初回） ・マインドマップとその背景 + ワークショップ（4回） ・マインドマップの書き方 + 実践（3～4回） ・マインドマップの応用性 + グループワーク（1～2回）
テ キ ス ト	プリント・資料を適宜利用する。 参考書（あくまでも参考書であり、必ずしも購入・持参する必要はない。 「ザ・マインドマップ」（ダイヤモンド社、2005）
対 象 学 年	全学年
場 所	原則として、記念棟 7 F
曜 日 ・ 時 刻	週 1 回、17時半開始を予定。詳細は参加者と相談で決定。
期 間 ・ 回 数	通年、合計10回程度。開催日時と合わせ、相談により決定。
単 位	1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席。
備 考	10名程度。希望者多数の場合、相談の上で2コマまでは同時開催の予定。（例：同一の内容を月曜と木曜で開催、など） 原則として医学部生を対象とするが、興味のある学生は看護学部の学生も歓迎する。 質問は yasada@jichi.ac.jp まで

担 当 教 員	浅田 義和、鈴木 義彦
所 属	メディカルシミュレーションセンター
テ ー マ	医療者のための IT・ICT 入門
学 習 目 標	・医療従事者として必要な IT・ICT のリテラシーを身につける ・個人情報、プライバシー、著作権の問題 ・ソフトウェアの理解 ・オンラインの場で、リテラシーに沿った形で情報発信ができる ・医療現場に役立つツールを理解し、使用できる ・必要に応じた情報検索ができる（含 英語）
学 習 方 法	・ローカル環境に設置した疑似 twitter などを用いた利用体験 ・事例を元にしたディスカッション（口頭・face to face） ・facebook グループ等を利用したオンラインでのディスカッション ・その他、PC や iPad 等のアプリ活用事例の紹介と実践
テ キ ス ト	特になし。適宜、プリント等を配布する。
対 象 学 年	全学年
場 所	記念棟 7 F メディカルシミュレーションセンター
曜 日 ・ 時 刻	毎週 1 回程度、17時半以降：詳細は参加者と相談のうえ決定。
期 間 ・ 回 数	1 回1.5時間程度×15回を予定だが、応相談。
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	授業への出席と貢献度。
備 考	近年では IT 技術の発達に伴い、医療現場での活用範囲も増えている。 一方、十分なリテラシー教育が為されていない事もあり、twitter での炎上事件のような事例も目にするが増えている。 医療者として必最低限の IT・ICT を学ぶ機会として、本セミナーを設ける。医学部のみならず、看護学部の学生の参加も歓迎する。 質問は yasada@jichi.ac.jp まで

担 当 教 員	岡崎 仁昭
所 属	医学教育センター
テ ー マ	内科鑑別診断のポイント
学 習 目 標	N Engl J Med の Case Records of the MGH と Clinical Problem-Solving とを教材に、実地臨床に役立つ内科鑑別診断の方法を学ぶ。
学 習 方 法	N Engl J Med の Case Records of MGH と Clinical Problem-Solving とを教材に、発表者を毎回決めて、参加者全員で討論する。参加には、ある程度の英語力と毎回出席し予習してくることを条件とします。
テ キ ス ト	プリントを毎回、1 週前に配付する。
対 象 学 年	4 ～ 6 学年
場 所	医学教育センター
曜 日 ・ 時 刻	火曜日・17：00～18：00
期 間 ・ 回 数	週 1 回（期間は皆で相談）
単 位	1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	学ぶ意欲のある学生を歓迎します。人数は10名以内。

担 当 教 員	岡崎 仁昭
所 属	医学教育センター
テ ー マ	USMLE 対策コース
学 習 目 標	USMLE 受験を目指す。
学 習 方 法	First Aid for the USMLE Step 1.2013 を教材に、参加者全員で問題を解きながら討論する。
テ キ ス ト	FIRST AID FOR THE USMLE STEP 1.2013
対 象 学 年	4 ～ 6 学年
場 所	医学教育センター
曜 日 ・ 時 刻	火曜日・19：00～20：00
期 間 ・ 回 数	週 1 回（期間は皆で相談）
単 位	1 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	USMLE 受験を目指す、意欲のある学生を歓迎します。 人数は 5 名以内。

担 当 教 員	金井 信行
所 属	医学教育センター／病理学・病理診断部
テ ー マ	学習支援セミナー
学 習 目 標	病態生理を踏まえ、記憶することを減らし、効率よく医学知識を身につけ、日常診療で、evidence に基づく診断治療ができる実力をつける。
学 習 方 法	下記テキストの抄読、試験問題などを解く。
テ キ ス ト	メディカルインデックス 金井信行著 医学評論社 (基礎医学から、プライマリケアレベルまで、すべてを1冊で含む画期的な医学テキスト) その他、希望に応じて、上記の本の引用で使用した、 Current Medical Diagnosis & Treatment、 Current Diagnosis & Treatment in Pediatrics、The Merk Manual などを使っての勉強も可能。 さらに、CBT や国家試験の問題集、あまり専門すぎないテキストの抄読、試験の過去問などの相談にも対応する。
対 象 学 年	1～6 学年
場 所	人数により指示する
曜 日 ・ 時 刻	月、火、金 7:50～8:30、12:35～13:35、放課後 の他 授業、実習のない時期、夏、冬、春休み中も相談により対応可能。 先約順であり、日程の調整がつかない場合には待機してもらうことがある。無断欠席などの場合は、待機の学生を優先する。
期 間 ・ 回 数	累計15時間
単 位	1 単位、各学期 1 単位、年間 3 単位まで
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	1～10人程度、複数のグループに対応する。 CBT や国家試験、またはこれらの模試で大幅に順位を上げたい人に有用。過去セミナー参加者は、2-3週～2ヵ月で40位～80位順位がアップしている。上記テキストは USMLE を参考にしているので、USMLE についても効果があると考えられる。本学の定期試験、総合判定試験については、科によって特色のある教育をしているため、成績大幅向上は期待できないことがある。

担 当 教 員	丹波 嘉一郎
所 属	緩和ケア部
テ ー マ	緩和ケア入門 「緩和ケアいろは歌」を読み解く
学 習 目 標	「緩和ケアいろは歌」を通して緩和ケアの基礎を学ぶ
学 習 方 法	予め配布する「緩和ケアいろは歌」（アニメ入りパワーポイント）を 毎回数枚ずつ観て、討論し、作者（丹波）が解説する。
テ キ ス ト	特に定めない。参考文献等は紹介する。
対 象 学 年	全学年
場 所	4月に正式に連絡します。
曜 日 ・ 時 刻	毎月第2木曜・18:00～19:30
期 間 ・ 回 数	年間10回
単 位	1単位
単位認定方法	7回以上の参加
備 考	

セ ミ ナ ー 94

担 当 教 員	丹波 嘉一郎、井上 莊一郎、岡島 美朗
所 属	緩和ケア部
テ ー マ	緩和ケアのスタンダードについて考える
学 習 目 標	カナダの標準的な緩和ケアマニュアルを読んだり、必要に応じて新たな文献を紹介して、緩和ケアのスタンダードとは何かを考える。
学 習 方 法	Alberta Hospice Palliative Care Resource Manual の改訂版の抄読会 緩和ケアに関する新しい文献の抄読会
テ キ ス ト	Alberta Hospice Palliative Care Resource Manual の改訂版
対 象 学 年	臨床的なので4 学年以上が望ましい
場 所	本館緩和ケア病棟医師室
曜 日 ・ 時 刻	毎週木曜日 昼の12時30分～
期 間 ・ 回 数	
単 位	1 単位
単位認定方法	月1 回以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 95

担 当 教 員	岡島 美朗
所 属	緩和ケア部
テ ー マ	心身医学
学 習 目 標	医療の中で起こる問題のうち、心理面への対処が必要なもの（心身症・虐待・不登校・発達障害・緩和ケアなど）の実状を理解し治療技法について学ぶ。
学 習 方 法	「心の診療、100ケース」（メディカルサイエンスインターナショナル刊）を輪読し、それについて討論を行う。
テ キ ス ト	その都度文献をコピーし配布する。
対 象 学 年	全学年
場 所	本館5階セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	火曜日・12:20～13:00
期 間 ・ 回 数	各学期10回
単 位	なし
単位認定方法	なし
備 考	

セ ミ ナ ー 96

担 当 教 員	梶井 英治
所 属	地域医療学
テ ー マ	わが国における医療の現状分析と将来展望
学 習 目 標	わが国の医療の現状を分析し解決策を探り、医療の将来あるべき姿を模索する。
学 習 方 法	参加各人が課題を持ち、セミナーの進行を通して学内外から招く講師と議論を重ねながらその課題を解決する手法で学習を行う。
テ キ ス ト	なし
対 象 学 年	全学年
場 所	地域医療学教室
曜 日 ・ 時 刻	希望者と相談の上、決定
期 間 ・ 回 数	年間25回
単 位	2単位
単位認定方法	3／5以上の出席
備 考	学内外から招く講師および当教室員の協力を仰ぐ。

セ ミ ナ ー 97

担 当 教 員	石川 鎮清
所 属	医学教育センター
テ ー マ	“大規模循環器コホートのいろは”
学 習 目 標	Community-base の調査研究方法の手法を学ぶ。 特に健診データ等の解析法を中心とする。 国内外の疫学研究について検討する。
学 習 方 法	平成22年度より開始となる J M S II コホート研究を通して、住民ベースのコホート研究に関して実践的に学ぶ機会とする。可能なら現地での調査にも参加してもらう。
テ キ ス ト	特になし。 必要なものはコピー等で提供する。
対 象 学 年	全学年
場 所	地域医療学教室、カンファレンステ이블 現地に赴く予定もある。
曜 日 ・ 時 刻	希望者と相談の上決定
期 間 ・ 回 数	年間20回を予定
単 位	2 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	

セ ミ ナ ー 98

担 当 教 員	石川 鎮清
所 属	医学教育センター
テ ー マ	身体所見から診断を考える
学 習 目 標	身体所見や簡単な検査所見から鑑別診断について検討する。 疾患の頻度や検査特性について勉強する。 全体を通してE B Mの実践を学ぶ。
学 習 方 法	・ J A M A の Rational Clinical Examination のシリーズを読む。 ・ 必要に応じてロールプレイ、診断手技の確認を行う。
テ キ ス ト	適宜コピーを配布：Rational Clinical Examination シリーズ
対 象 学 年	4 ～ 6 学年
場 所	新館 2 F セミナー室 5
曜 日 ・ 時 刻	水曜日 12：30～13：30
期 間 ・ 回 数	年間20回以上を予定
単 位	2 単位
単位認定方法	4 / 5 以上の出席
備 考	このテーマに興味のある医師も参加の可能性あり。

担 当 教 員	亀崎 豊実
所 属	地域医療学部門・地域医療支援部門
テ ー マ	貧血を考える
学 習 目 標	貧血について理解を深める
学 習 方 法	下記テキストと関連する論文の輪読
テ キ ス ト	・ Immune Hemolytic Anemias 2nd Edition (2003) ・ 適宜、プリントを配布します。
対 象 学 年	全学年
場 所	地域医療オープン・ラボ (DS-001)
曜 日 ・ 時 刻	相談の上、決める。
期 間 ・ 回 数	週1回程度
単 位	1単位
単位認定方法	出席
備 考	

担 当 教 員	岡山 雅信
所 属	地域医療学部門
テ ー マ	地域医療と行動科学
学 習 目 標	地域医療現場では、生活習慣病の予防など、患者（住民）の生活様式、つまり行動への介入が不可欠です。また、最近では、生活習慣病に係る遺伝子分析も進んでいます。 このセミナーでは、生活習慣への適切な行動介入の手法を、テキストを通して学習する。
学 習 方 法	下記のテキストを輪読します。 その後、逐次、資料（進行中の遺伝子情報を利用した生活習慣への介入研究から得られた知見や関連論文等）を提示して、議論します。
テ キ ス ト	健康のための行動変容 法研 (Health Behavior Chang, Churchile Livingstone) 遺伝子情報を活用した行動介入の関連論文、大規模地域ゲノムバンク/生活習慣介入研究の解析結果。
対 象 学 年	全学年
場 所	地域医療学センター地域医療学部門 会議室
曜 日 ・ 時 刻	水曜日 18時～19時
期 間 ・ 回 数	年間15回
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	出席10回以上
備 考	

担 当 教 員	岡山 雅信、藍原 雅一
所 属	地域医療学部門、地域医療情報学部門
テ ー マ	空間疫学：地理情報システム（GIS）の応用
学 習 目 標	地域医療を円滑に進めるためには、適切な地域医療システムを構築する必要があります。そのためには、地域における資源の有効利用が不可欠です。とりわけ、アクセスが課題となる過疎地域においては、言うまでもありません。有効利用実現に向けた分析で、有力なツールとして地理情報システムの活用が注目されつつあります。 このセミナーでは、地理情報システムの基礎事項を理解し、過疎地域の課題を見える化するために、地域医療資源の分析を通して課題を検討します。
学 習 方 法	テキストを輪読します。 適時、地域医療学センター地域医療情報学部門で構築した地域医療データバンクを活用し、地域医療資源へのアクセスの分析を行います。
テ キ ス ト	空間疫学への招待－疾病地図と疾病集積性を中心として 朝倉書店 地理情報システムの関連論文、地域医療データバンクの解析結果
対 象 学 年	全学年
場 所	地域医療学センター地域医療学部門 会議室
曜 日 ・ 時 刻	月曜日 19時～20時
期 間 ・ 回 数	年間15回
単 位	1単位
単位認定方法	出席10回以上
備 考	

担 当 教 員	三瀬 順一
所 属	地域医療学部門
テ ー マ	家庭医療学の基本
学 習 目 標	1. 家庭医療学の基本概念を知る。 2. 家庭医療の実践に必要な知識と技術を身につける。 3. 行動科学と臨床疫学の基本を身につける。 4. 設定に合わせた医療のあり方を考え、自分の意見をもてるようにする。
学 習 方 法	1. テキストの輪読 2. ディスカッション 3. 小規模な記述研究 4. 実地修練又は見学
テ キ ス ト	Mcwhinney IR : A textbook of Family Medicine 2nd Ed, 1997 Taylor R : Family Medicine 6th Ed. 2000 日本家庭医療学会編 家庭医 プライマリ・ケア医入門, 2000
対 象 学 年	3 ～ 6 学年
場 所	本館 2 階西 地域医療学部門 (2 階西病棟跡地)
曜 日 ・ 時 刻	毎週水曜日、午前 7 時30分～ 8 時20分 春季、夏季休暇中
期 間 ・ 回 数	30分×30回 (1.5hr×10コマ、15hr) 、 1 ～ 2 日× 2 回
単 位	1 単位
単位認定方法	レポート (小論文) 又は、学会口演又は論文投稿
備 考	

担 当 教 員	三瀬 順一
所 属	地域医療学部門
テ ー マ	コモンヘルスプロブレム解剖から臨床まで“教えて学ぶ”
学 習 目 標	今、講義で学んでいることを他学年に教えることを通して自ら学ぶ力を育てる。
学 習 方 法	1. 課題を決めて自習 2. 自習結果を発表 3. 若干のディスカッション
テ キ ス ト	ハリソン内科学
対 象 学 年	全学年
場 所	本館2階西 地域医療学部門（2階西病棟跡地）
曜 日 ・ 時 刻	木曜日・18時～19時30分
期 間 ・ 回 数	90分間×30回
単 位	2単位
単位認定方法	参加者による評価
備 考	

担 当 教 員	中村 好一、青山 泰子、小谷 和彦、坪井 聡、小熊 妙子
所 属	公衆衛生学部門
テ ー マ	病気になる人、ならない人
学 習 目 標	データ解析を通じて病気の頻度を規定する因子について科学的に考える方法を学ぶ。
学 習 方 法	教室内にある疫学データを解析する。可能であれば学会発表や論文作成にもチャレンジする。
テ キ ス ト	特に定めない 参考文献（先輩達の成果） 1）槇尾崇、他、自動車事故死亡の都道府県格差に関する要因、日本公衛誌 1997；44（10特別附録）：190. 2）黒川雅史、他、離婚の疫学、月刊地域医学 2001；15(8)646-651.
対 象 学 年	3～5 学年
場 所	公衆衛生学研究室 1（E 1－108）
曜 日 ・ 時 刻	参加者と相談の上、決める。
期 間 ・ 回 数	5 月～12 月隔週 1 回 20 コマ
単 位	2 単位
単位認定方法	4／5 以上の出席
備 考	2 年間以上にわたる継続受講も可能

担 当 教 員	中村 好一、青山 泰子、小谷 和彦、坪井 聡、小熊 妙子
所 属	公衆衛生学部門
テ ー マ	疫学統計の概念を学び、実践する
学 習 目 標	疫学統計の基本を理解し、実例や論文などを通して実践を学ぶ
学 習 方 法	毎月4回のうち、第1～3回についてはテキストを使って疫学統計の基礎を勉強していく。また、毎月第4回目は、疫学に関連する論文や、参加者の研究内容を発表しディスカッションをして疫学、公衆衛生への実践、応用をはかる。
テ キ ス ト	疫学、生物統計学に関する和洋書 (テキストは公衆衛生学教室で提供する) 過去のテキスト：福井次矢(監), 臨床疫学 CDC, Principles of Epidemiology (3rd edition)
対 象 学 年	全学年
場 所	公衆衛生学研究室1 (E 1-108)
曜 日 ・ 時 刻	火曜日 (18:00～19:30)
期 間 ・ 回 数	5月～3月 40回
単 位	2単位
単位認定方法	4/5以上の出席
備 考	

担 当 教 員	針田 哲
所 属	公衆衛生学部門
テ ー マ	地域医療行政と施策立案
学 習 目 標	地域医療行政の仕組みやルールを学び、自らが考える施策を実現するための手順を考える。 1. 行政の仕組みとルールを学ぶ 2. 施策の立案から施行までの手順や経緯を知る 3. 自ら実現したい施策を考える 4. 施策実現のための障害とその解決方策を考える 5. 施策実現のための戦略と戦術を考える 6. 施策実現のためにしなければならない準備を考える
学 習 方 法	資料等を用いてディスカッション
テ キ ス ト	特になし。 必要に応じてプリント等を配布する。
対 象 学 年	全学年
場 所	未定（教育研究棟2階 会議室を想定）
曜 日 ・ 時 刻	曜日未定 16:30～18:00
期 間 ・ 回 数	年10回程度
単 位	1単位
単 位 認 定 方 法	出席に応じて担当教員が認定する
備 考	全体で10名程度

担 当 教 員	窓岩 清治、大森 司
所 属	分子病態研究部
テ ー マ	止血血栓の新展開
学 習 目 標	生きるための闘いの中で、止血機構は重要な役割を果たし、進化してきた。現在でも殆どの疾患において、血栓と出血は致命的要因として重要な意味を持つ。止血血栓形成の分子機構、及び、止血血栓関連因子が組織修復から血管新生までに果たす役割について、新しい学術論文の抄読を通して理解を深める。
学 習 方 法	関係する学術論文の抄読と評価に焦点を当てる。 時間が許せば遺伝子解析などの実際を見学することも可能である。
テ キ ス ト	テーマを選んで、関連論文を指定する。
対 象 学 年	4～6 学年
場 所	分子病態研究部（止血血栓）教室、教育研究棟 8 F
曜 日 ・ 時 刻	月曜日、午後 5 時頃～ 6 時30分頃迄
期 間 ・ 回 数	5 月～12 月：計15回
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	出席回数10回以上及び内容の理解度
備 考	2～3 人のグループが望ましい。

担 当 教 員	小澤 敬也、久米 晃啓、水上 浩明、ト部 匡司、塚原 智典
所 属	遺伝子治療研究部
テ ー マ	遺伝子治療
学 習 目 標	遺伝子治療をメインテーマとし、先端医学のテクノロジーの基礎と応用について学ぶ。
学 習 方 法	スライドを用いたレクチャーのあと、フリーディスカッションを行う。また、研究室の雰囲気を知るため実験を見学する。
テ キ ス ト	参考図書： 医学&サイエンスシリーズ「遺伝子治療」（羊上社） 臨床遺伝子医学ガイダンス（南山堂） 造血幹細胞—基礎から遺伝子治療・再生治療へ—（中外医学社）
対 象 学 年	3～6 学年
場 所	遺伝子治療研究部会議室
曜 日 ・ 時 刻	18：00～19：30 ・ 但し、相談してスケジュールを決定する。
期 間 ・ 回 数	1 学期のみ10回（5 月～7 月）
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	4 / 5 以上の出席
備 考	2 名以上 5 名以下

担 当 教 員	花園 豊
所 属	再生医学研究部
テ ー マ	「時事医学」入門
学 習 目 標	医学上の「新発見」や「新開発」といったニュース見聞の機会は少なくない。マスコミに出る医学情報、とくに再生医学関連ニュースを取り上げて、先端医学の現状を知り社会との接点を探る。 また、先端医学に関するマスコミ情報を客観的に捉える能力を養う。
学 習 方 法	1. 新聞記事の切り抜き（またはスキャン）とスクラップブック（またはPDFファイル）の作成。 2. 原典（原著論文や学会抄録）にあたる。 3. レクチャーと自由討論。
テ キ ス ト	特に定めないが、適宜紹介する。
対 象 学 年	3～6学年
場 所	再生医学研究部
曜 日 ・ 時 刻	応相談
期 間 ・ 回 数	計10回程度
単 位	1単位
単 位 認 定 方 法	出席に応じて認定
備 考	2名以上5名くらいまで。

担 当 教 員	高橋 将文
所 属	炎症・免疫研究部
テ ー マ	炎症・免疫学入門
学 習 目 標	様々な疾患の病態に炎症・免疫反応が関与している。この炎症・免疫反応の分子機序を理解するとともに、疾患との関わりを学習する。また、実際の実験を見学・参加することにより理解を深める。
学 習 方 法	教科書・総説等の輪読と解説。 実験の見学および参加。
テ キ ス ト	相談の上で決める。
対 象 学 年	全学年
場 所	炎症・免疫研究部（教育研究棟 7 階）
曜 日 ・ 時 刻	相談の上、決める。
期 間 ・ 回 数	相談の上、決める。
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	出席に応じて認定する（原則 8 割以上）。
備 考	

担 当 教 員	川上 潔、佐藤 滋、矢嶋 浩、杉本 大樹、高橋 将文
所 属	細胞生物研究部
テ ー マ	発生生物学の最前線
学 習 目 標	新着雑誌から、発生、形態形成などの現象にかかわる重要な論文の骨子を教員が紹介し、最近の動向を学ぶ。
学 習 方 法	新着論文の解説、討論。
テ キ ス ト	毎回、取り上げる論文のデータを主とした資料プリントを配布。
対 象 学 年	全学年（高学年を主とする）
場 所	教育・研究棟 7 階 共同会議室
曜 日 ・ 時 刻	火曜日・18：00から約 1 時間半。
期 間 ・ 回 数	毎月 2 回、通年22回
単 位	20コマ 1 単位× 2、年 2 単位
単 位 認 定 方 法	4 / 5 以上の出席
備 考	参加申込期間中随時。 申込方法：細胞生物研究部川上まで氏名、寮室番号・電話番号、連絡先を書いたメモをわたす。

担 当 教 員	川上 潔
所 属	細胞生物研究部
テ ー マ	発生生物学入門
学 習 目 標	教科書の輪読を行い、発生生物学を体系的に学ぶ
学 習 方 法	「発生生物学」の各回のテーマ部分をあらかじめ各自読み、要約し、問題点等を討論する
テ キ ス ト	ウォルパート発生生物学 4 版（監訳：武田洋幸、田村宏治） メディカルサイエンスインターナショナル
対 象 学 年	全学年
場 所	教育・研究棟 2 F セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	相談のうえ、決める。
期 間 ・ 回 数	毎回1.5時間・10回 2 学期～ 3 学期
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	8 割以上の出席
備 考	このセミナーで学ぶ事は医学に役立つ発生生物学の基礎知識の習得に有用である。 意欲のある学生向きである。

担 当 教 員	川上 潔
所 属	細胞生物研究部
テ ー マ	がんの生物学
学 習 目 標	がんの生物学を理解する。
学 習 方 法	毎週決めた章を読んでおく。その内容についての討論をセミナー中に行い、理解を深める。 討論が主である。
テ キ ス ト	南江堂 がんの生物学（2008刊）
対 象 学 年	全学年
場 所	教育・研究棟 2 F セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	相談のうえ、決める。
期 間 ・ 回 数	全15回
単 位	1 単位
単 位 認 定 方 法	4 / 5 以上の出席
備 考	

担 当 教 員	佐藤 滋
所 属	細胞生物研究部
テ ー マ	ヒトの進化史を理解しよう
学 習 目 標	アメリカの大学で定評のある How Humans Evolved 第5版の訳本「ヒトはどのように進化してきたか」を使用し、ヒトの遺伝的・形態的特徴、さらに現代人の行動と進化との関わりについて理解を深める。
学 習 方 法	毎回決めた章を各自読んでおく。重要な点を要約し、その内容についての討論を行う。
テ キ ス ト	ヒトはどのように進化してきたか ロバート・ボイド、ジョーン・B・シルク 著 松本晶子、小田 亮 監訳 出版社：ミネルヴァ書房（2011/7/10） ISBN：978-4623058983
対 象 学 年	全学年
場 所	教育・研究棟2階 セミナー室
曜 日 ・ 時 刻	希望者と相談の上決定
期 間 ・ 回 数	全15回
単 位	1単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	

担 当 教 員	岩本 禎彦
所 属	人類遺伝学研究部
テ ー マ	人類遺伝学セミナー
学 習 目 標	近年のゲノム解読計画によって、ほぼヒト全ゲノムの塩基配列の決定が終了した。しかし、これは解析のほんのスタートにすぎない。今後はその中にどのような暗号が隠されているのか、それを解くための文法はあるのかなど残された謎は多い。本セミナーでは、ゲノム解析の現状を知り、その情報を処理する方法を探る。
学 習 方 法	1. ゲノム解析に関する最新文献を抄読する。 2. インターネットを使って、ジーンバンクなどの遺伝子情報、ソフトウェアを活用する方法を修得する。
テ キ ス ト	プリントを準備、配布する。
対 象 学 年	全学年
場 所	分子病態治療研究センター・人類遺伝学研究部
曜 日 ・ 時 刻	相談の上決定
期 間 ・ 回 数	各学期10回、計30回
単 位	1年間で2単位
単位認定方法	4／5以上の出席
備 考	3人程度

担 当 教 員	力山 敏樹、清崎 浩一、堀江 久永
所 属	総合医学第2
テ ー マ	地域における消化器癌検診の現状と問題点
学 習 目 標	地域における胃癌・大腸癌の検診がどのように実施されており、その結果発見される胃癌・大腸癌の特徴は何か？検診の問題点等について学習する。
学 習 方 法	自治医科大学さいたま医療センターにおいて手術された胃癌・大腸癌の手術症例の検討をもとに上記の目標を達成する。 ・胃癌検診については、3年前から内視鏡検査が導入されている。従って、内視鏡による健診とX線による健診につき、それぞれの健診で発見された癌の特徴を検討する。 ・検診で発見された胃癌・大腸癌の術前病期診断および切除標本の病理組織学的所見と遠隔成績を有症状にて発見された症例と比較して検討する。
テ キ ス ト	大腸癌・大腸ポリープ（図説消化器病シリーズ8） よくわかる大腸癌のすべて（永井書店）他 胃癌リスク健診（ABC 健診）マニュアル（南山堂 2009年10月）
対 象 学 年	4～5学年
場 所	自治医科大学さいたま医療センター4階カンファレンスルーム
曜 日 ・ 時 刻	毎週あるいは隔週、水、木または金曜日、午後4時～6時
期 間 ・ 回 数	1回2時間～3時間 1／1～2週
単 位	1単位
単位認定方法	試問およびレポートによる
備 考	

編	集	教	務	委	員	会
編	集	教	務	委	員	長
編	集	学	事	課	教	務
担	当				務	係